Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

WeLL CALL システムソフト

ML-S2200　教員用アプリケーション　操作マニュアル

1. システムの概要 5
2. 授業前の準備 9
3. 授業の開始 16
4. 教材の送出とダビング 24
5. 音声・映像ファイルの利用 33
6. 会話練習とコミュニケーション 40
7. 学習状況の確認と評価 54
8. PC 学習ファイルの利用. 57
9. 画面送受信 64
10. 学習者用パソコンの制御 69
11. 教材の持ち帰り 73
12. レスポンス・アナライザー 76
13. 授業の終了 84
14. 視聴覚モード 86
15. 教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理) 88

「CALL システムソフト 教員用アプリケーション」は、CALL システムを利用して授業を行うときに教員が使用するアプリケーションです。この操作マニュアルでは、教員用アプリケーションの操作方法を説明しています。

映像・音声ソフトには著作権上、権利者に無断で使用できないものがあります。事前にご確認ください。
このマニュアルに記載されているロゴマーク、製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

LST0812-001B

目次

1. システムの概要

システムの構成イメージ 6
操作画面一覧 7

2. 授業前の準備

ログイン 10
教員毎設定 11
　マスターコンソールの設定 12
　学習者用パソコンの設定 13
　コール音 ON/OFF 14
　画面転送の設定 14
　USB カメラの設定 14
学習者用パソコンの起動 15

3. 授業の開始

履修クラス (授業) の選択と開始 17
学習者のログイン 17
学習者がパスワードを忘れた場合 19
出欠確認と記録の保存 20
　出席をとる (出欠確定) 20
　遅刻の記録と対応 21
　早退の確認 21
　授業ごとの出欠情報を確認 1
　(「認証あり」を採用しているシステムの場合) 22
　授業ごとの出欠情報を確認 2
　(「認証なし」「統合認証」を採用しているシステムの場合) . . 23

4. 教材の送出とダビング

学習者用パソコンへ教材送出 (音声・映像) 25
メインモニター (プロジェクター) へ教材送出 26
サブモニター (センターモニター) へ教材送出 27
教材送出中の制御 28
　消音 28
　話速ロック / 話速制御 28
　マイクミックス 28
　送出クリア 28
AV 機器の制御 29
ボリューム調整 30
送出教材のダビング (一斉録音・一斉録画) 31
　音声教材のダビング (一斉録音) 31
　映像教材のダビング (一斉録画) 31
書画カメラのメモリー読み込み (AV-P960 Viewer) 32

5. 音声・映像ファイルの利用

教材の準備 34
　使用できるファイルの種類 34
　データベースに登録 34
教材ファイルの公開と転送 35
　教材ファイルの公開 35
　教材ファイルの転送 36
USB メモリ等から教材ファイルを転送 37
練習録音ファイルの回収 38
　練習録音ファイルを一斉回収 38
　練習録音ファイルを個別に回収 39

6．会話練習とコミュニケーション

同時進行モード 41
ペアレッスン 42
グループレッスン 43
グループ登録 44
チャット 45
会話録音 45
コール (学習者に呼びかける) 46
　コール 46
　オールコール 46
モニター (学習者の会話音声を聞く) 47
　モニター 47
　スキャンモニター 47
インカム (学習者と対話する) 49
モデル 49
コールレスポンス (学習者からの呼びかけに応じる) 50
話速制御 51
サイマル 52
原文・訳文の表示切り替え 52
メッセージ送信 53

7．学習状況の確認と評価

練習状況のアイコン表示 55
練習状況の一覧表示 55
USB カメラ画像を一覧表示 56
評価やコメントを記録 56

8．PC 学習ファイルの利用

教材の準備 58
　使用できるファイルの種類 58
　データベースに登録 58
PC 学習ファイルの一斉配布 58
USB メモリ等から PC 学習ファイルを配布. 59
特定の学習者に PC 学習ファイルを配布. 60
PC 学習ファイルの回収 61
　PC 学習ファイルを一斉回収. 61
　特定の学習者から PC 学習ファイルを回収 62
学習者からのファイル提出 62
PC 学習ファイルの返却 63

9．画面送受信

学習者画面の一覧表示 65
教員画面の一斉送信 65
学習者画面の個別受信 67
教員画面の個別送信 68
モデル画面の一斉送信 68

10. 学習者用パソコンの制御
学習者パソコンの操作ロックとブラックアウト 70
操作ロック 70
ブラックアウト 70
アプリケーションの使用を制御 71
インターネットアクセスを制御 71
学習者用パソコンで指定の URL を開く 71
インターネットアクセスを禁止する 71
教材ロック (使用教材を限定) 72
自習モードの設定 72

11. 教材の持ち帰り
一斉ＣＤ書き込み機能で持ち帰り 74
学習者がコピーして持ち帰り 75

12. レスポンス・アナライザー
１つの問題ごとに集計 77
複数の問題で集計 78
問題の準備 78
問題の保存 79
問題の読み込み 80
テストの実施 81
回答の統計 83
学習者用の統計 83

13. 授業の終了
授業を終了する 85
学習者用パソコンの一斉終了 85
マスターコンソールのログオフとシャットダウン 85
教員名の変更 85
シャットダウン 85

14. 視聴覚モード
視聴覚モード 86

15. 教材フォルダブラウザ
教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理) 88

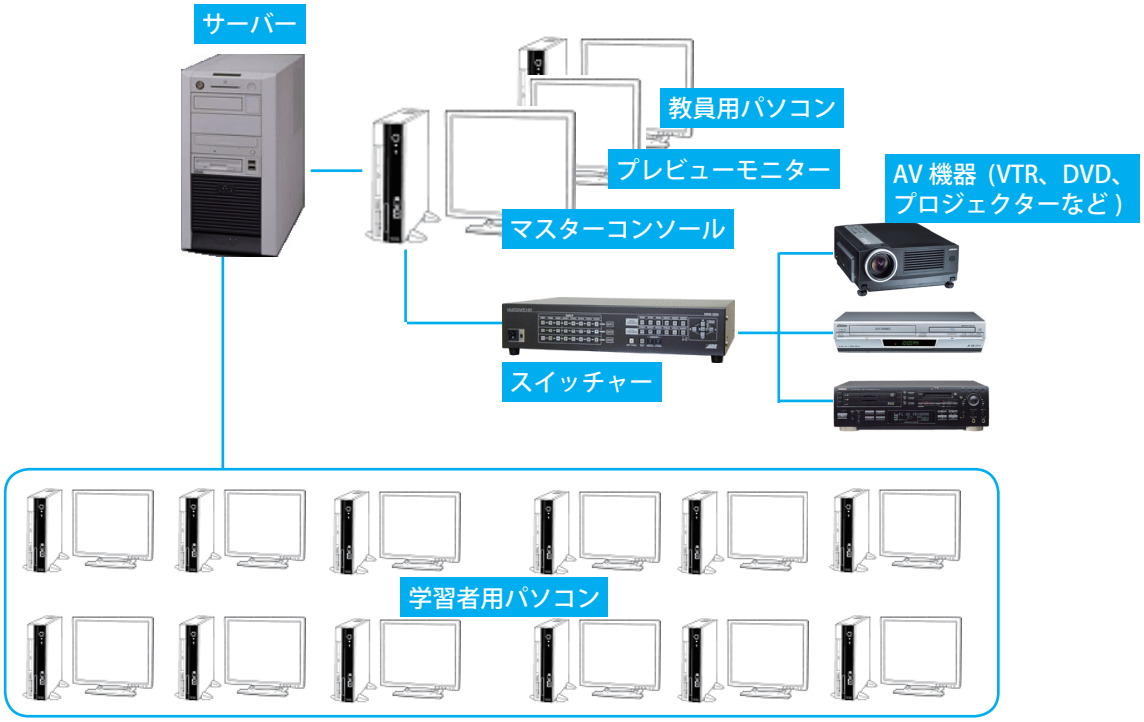
1. システムの概要

CALL システムソフトは、LAN 環境とパソコンを利用して語学学習授業をサポートするシステムです。システム運用の前に、CALL システムの概要を説明します。

■ システムの構成イメージ 6
■ 操作画面一覧..... 7

システムの構成イメージ

このシステムでは、教室に整備された LAN 環境を利用して、マスターコンソールを中心に授業を進めます。マスターコンソールと学習者用パソコンに加えて VTR、DVD、そしてプロジェクターなどの AV 機器を接続することによってさまざまなメディアでの学習が可能です。



サーバー	教員や学習者の情報、ネットワークの情報などシステム運用に必要な情報がすべて保存されています。学習者への教材配布や回収もサーバーを通して行われます。
マスターコンソール	授業進行の中心となる教員用の操作パソコンです。このパソコンには「マスターコンソールアプリケーション」がインストールされています。このアプリケーションを操作して教材を送出したり、学習者と対話したりします。
教員用パソコン	教員が授業中に補助的に使うパソコンです。Word や Excel をはじめとする汎用ソフトウェアをインストールして、資料作成に使用することもできます。画面送受信機能を利用してこのパソコンの画面をそのまま学習者に転送することができます。また、各学習者用パソコンの画面を受信して確認することができます。
プレビューモニター	映像教材 (DVD や VTR など) を使用する場合に、教員用確認モニターとして使用します。
スイッチャー	接続されている AV 機器 (VTR、DVD、カセットテープ、CD、プロジェクターなど) の出力をコントロールします。
AV 機器	スイッチャーと AV 機器 (VTR、DVD、カセットテープ、CD、プロジェクターなど) を接続することで、いろいろな種類の教材を使用して授業を行うことができます。
学習者用パソコン	授業中に学習者が使用するパソコンです。「学習者用アプリケーション」がインストールされています。このアプリケーションを使用して、教材を見たり聞いたりします。学習者用パソコンは、マスターコンソールから遠隔操作 (電源の ON/OFF、操作ロックなど) が可能です。

操作画面一覧

このシステムでは、教員は主にマスターコンソール、学習者は学習者用パソコンを使用して授業を行います。
それぞれのパソコンで表示される画面は次のようになっています。

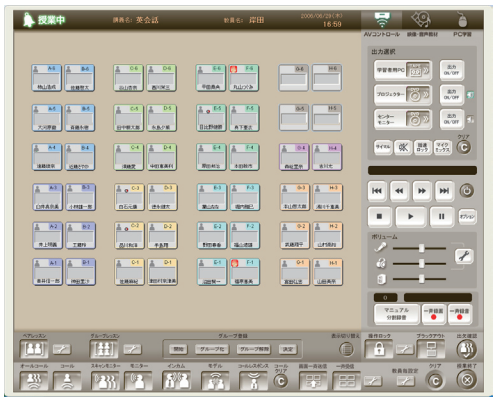
マスターコンソールの画面

メインメニュー

(授業開始)

授業画面

授業画面は、学習者の座席表示と AV 機器や学習者との通信に関する操作ボタンで構成されています。



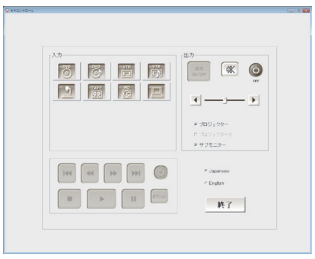
教材作成アプリケーション

音声の取り込みや録音を行い、編集して音声教材ファイルを作成します。
詳細は、教材作成アプリケーション操作マニュアルを参照してください。

設定・登録画面

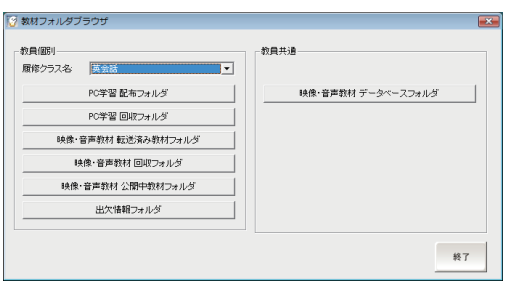
システムの運用に必要なデータの設定・登録を行います。詳細は管理者用操作マニュアルを参照してください。

その他のツール (マスターコンソールアプリケーションを終了させて使用します。)



AV コントローラー

教室の視聴覚設備 (AV 機器とプロジェクター、サブモニター) だけを使用する場合の操作画面です。授業を開始しなくても機器の操作が可能です。



教材フォルダブラウザ

履修クラスごとの教材の公開・配布状況が一目でわかる管理ツールです。不要な教材を削除したり、次回の授業で配布する教材をサーバーに登録するために使用します。(システムによっては、教員用パソコンにインストールして使用することも可能です。)

学習者用パソコンの画面

ナビゲーター

ソフトウェアレコーダー

学習者はナビゲーターとソフトウェアレコーダーを併用して授業に参加します。ナビゲーターは文書ファイル教材の閲覧などに使用し、ソフトウェアレコーダーは音声・映像教材を使った会話練習のときに使用します。

ピッチ表示

教材音声と練習録音音声のイントネーションを比較するための画面です。赤い表示が教材の音声、青い表示が練習録音の音声です。ソフトウェアレコーダーの［ピッチ表示］ボタンをクリックすると表示されます。

Camera Viewer

ペアレッスンやグループレッスンのときに、練習メンバーの顔を表示する画面です。ペア / グループレッスンを開始すると自動的に表示されます。(カメラが接続されていないシステムでは表示されません。)

2. 授業前の準備

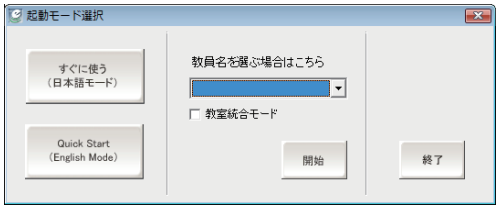
授業前の準備として、各教員が行うログイン操作、画面設定操作そして学習者用パソコンの起動について説明します。

■ ログイン 10
■ 教員毎設定 11
マスターコンソールの設定 12
学習者用パソコンの設定 13
コール音 ON/OFF 14
画面転送の設定 14
USB カメラの設定 14
■ 学習者用パソコンの起動 15

ログイン

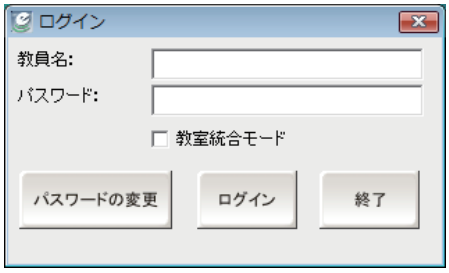
CALL システムを使用して授業をはじめる前に、教員はシステムにログインする必要があります。ログインにの方法には「認証なし」「統合認証」「認証あり」があり、システムの設定によって異なります。また、システムの設定によっては「教室統合モード」が使用できます。
（ログイン方法及び教室統合モードはシステム設定時に決められています。詳細は販売店にお問い合わせください。）

ログイン画面

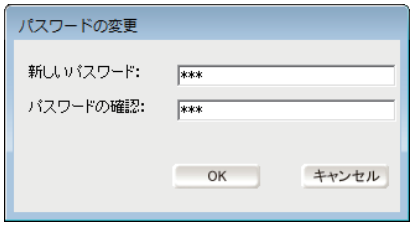


メインメニュー

ログイン画面



パスワードの変更画面



「認証なし」または「統合認証」を採用している場合

1. サーバーとマスターコンソールを起動します。
2. Windows にログインしたあと、CALL システムのログイン画面が表示されます。
「教員名を選ぶ場合はこちら」より、あらかじめ登録されている教員名を選択して [開始] をクリックしてください。
パスワードを設定している教員はパスワードの確認画面が表示されますので、パスワードを入力してログインします。
ログインに成功すると、メインメニューが表示されます。

パスワードの設定と変更

新しくパスワードを設定する場合や登録しているパスワードを変更する場合は、メインメニューから [教員ユーザー管理] をクリックします。新しくパスワードを設定する場合は「パスワードあり」にチェックマークを付けてからパスワードを入力し、[OK] をクリックします。パスワードを変更する場合は、パスワード欄に表示されている「*******」マークを削除し、新しいパスワードを入力して [OK] をクリックします。

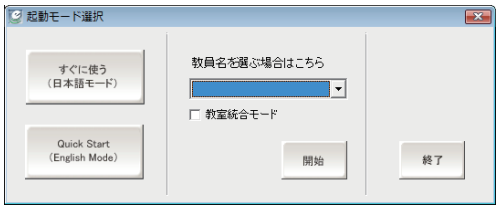
「認証あり」を採用している場合

1. サーバーとマスターコンソールを起動します。
2. Windows にログインしたあと、CALL システムのログイン画面が表示されます。[教員名] のところに、登録されている教員名を入力してください。次に [パスワード] のところに、登録されているパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。(ログインの教員名とパスワードは、あらかじめ登録されているものと一致している必要があります。システムの管理者の指示に従って入力してください。)

ログインに成功すると、CALL システムメインメニューが表示されます。

パスワードの変更

ログイン画面で、教員名と現在のパスワードを入力して [パスワードを変更する] をクリックします。「パスワードの変更」画面が表示されたら [新しいパスワード] のところに新しいパスワードを入力して、[パスワードの確認] にもう一度入力してください。入力が終わったら [OK] をクリックします。



教室統合モードを使用する場合 これはオプションの機能です

2 つの教室を統合し、1 教室として使用する「教室統合モード」が使用できます。
「教室統合モード」を使用する場合、2 つの教室のどちらか一方のマスターコンソールのみを使用し、［教室統合モード］をクリックしてチェックマークをつけてからログインします。

メモ 教室統合モードを使用する場合、2 台のマスターコンソールのうち、使用しないマスターコンソールはシャットダウンする必要があります。
また、教室統合モードを使用しての授業中は、使用していないマスターコンソール PC を起動しないでください。

教員毎設定

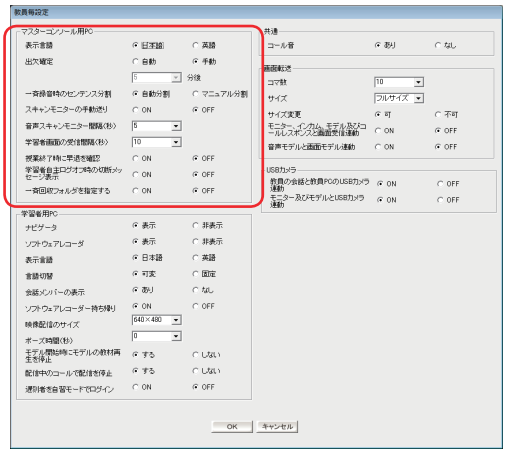
各教員ごとにマスターコンソールや学習者用パソコンの設定を決めることができます。ここで設定した項目は、ログインしている教員名ごとに保存され、次回の授業時も保持されます。

一部の項目を除いて、教員毎設定は授業中に変更することができます。授業中に教員毎設定を変更する場合は、授業画面下部の「教員毎設定」のスパナマークボタンを押して、画面を表示させてください。授業中に変更できない項目の設定を変更するには、メインメニューから [教員毎設定] をクリックして設定を変更します。設定後は [OK] をクリックして教員毎設定の画面を閉じてください。

メインメニュー

授業画面

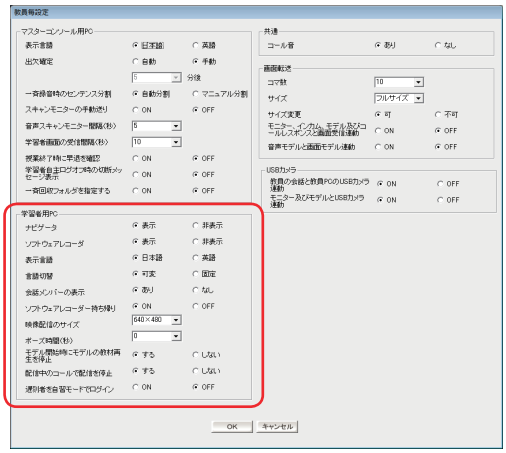
「教員毎設定」画面



マスターコンソールの設定

表示言語	マスターコンソールに表示されるメインメニューと授業画面の表示を英語 / 日本語に切り替えます。設定の変更は次回ログイン時から有効です。(授業中は変更できません)
出欠確定	[出欠確定] を授業開始後一定時間経過後に自動的に行う場合は「自動」を選択し、時間を指定し ます。教員が手動で行う場合は「手動」を選択してください。出欠確定については 20 ページ「3. 授業の開始　出欠確認と記録の保存」を参照してください。
一斉録音時のセンテンス分割	送出教材の一斉録音時に自動的にセンテンス分割を行う場合は [自動分割] を、自動分割を行わない場合は [マニュアル分割] を選択してください。センテンスの自動分割については管理者用操作マニュアルの「7. 初期設定」も参照してください。マニュアル分割については 31 ページ「4. 教材の送出とダビング　送出教材のダビング (一斉録音・一斉録画)」を参照してください。
スキャンモニターの手動送り	スキャンモニター開始時、教員の操作でモニター対象学習者を順次送りする場合は「ON 」を選択し、指定した間隔で自動的に送る場合は「OFF 」を選択します。
音声スキャンモニター間隔 (秒)	スキャンモニターの間隔を 3 秒～ 60 秒で設定します。スキャンモニターについては 47 ページ「6. 会話練習とコミュニケーション　モニター」を参照してください。
学習者画面の受信間隔 (秒)	画面受信機能で学習者の画面を確認する場合の画面更新間隔を 3 秒～ 6 0 秒で設定します。設画面受信については 64 ページ「9. 画面送受信」を参照してください。
授業終了時に早退を確認	授業終了時に自動的に早退確認を行う場合は「O N 」を選択します。教員が手動で行う場合は「O F F 」を選択してください。早退確認については 21 ページ「3. 授業の開始　早退の確認」を参照してください。
学習者自主ログオフ時の切断メッセージ表示	授業中に学習者が Windows のシャットダウン、再起動及びログオフ操作を行った場合に、マスターコンソールに警告メッセージを表示する場合は「ON 」を選択します。警告メッセージを表示したくない場合は「OFF」を選択してください。
回収フォルダ指定	一斉回収及び個別回収操作時、回収フォルダを都度指定する場合は「ON」を選択し、サーバー上の既定のフォルダに回収する場合は「OFF」を選択します。

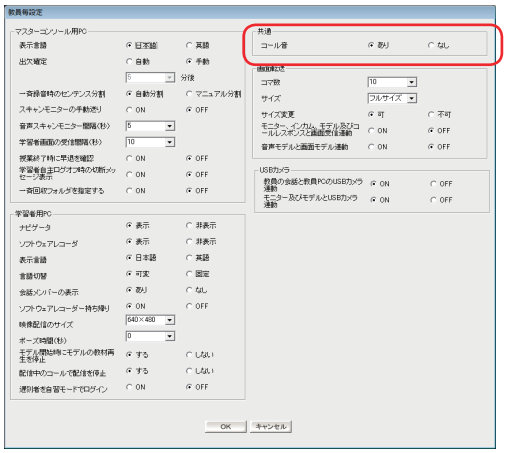
「教員毎設定」画面



学習者用パソコンの設定

ナビゲータ	授業開始時に学習者のナビゲーター画面を最小化しておく場合は「非表示」を選択します。通常はナビゲーターを表示して授業を開始しますので「表示」が選択されています。(この設定を授業中に変更することはできません。最小化・最大化は学習者が授業中に操作できます。)
ソフトウェアレコーダ	授業開始時に学習者のソフトウェアレコーダー画面を最小化しておく場合は「非表示」を選択します。通常はソフトウェアレコーダーを表示して授業を開始しますので「表示」が選択されています。(この設定を授業中に変更することはできません。最小化・最大化は学習者が授業中に操作できます。)
表示言語	学習者用パソコンの授業画面の表示言語を英語 / 日本語に切り替えます。
言語切替	学習者用パソコンの授業画面の表示言語 (英語 / 日本語) を学習者が自由に変更できるようにする場合は [可変] に、学習者に表示言語の切り替え操作をさせない場合は [固定] に設定します。[固定] に設定した場合、学習者用パソコンの授業画面の表示言語は、上記の「表示言語」部分で設定した言語になります。
会話メンバーの表示	学習者にグループレッスンやペアレッスンを指示したとき、各学習者の画面に同じグループのメンバー名を表示させる場合は [あり] に、表示させない場合は [なし] に設定してください。
ソフトウェアレコーダー持ち帰り (オプション)	授業で使用した教材を学習者が持ち帰る場合に、教材と一緒にソフトウェアレコーダーのインストーラーを持ち帰るようにする場合は[ON]に、インストーラーを持ち帰らせない場合は[OFF] に設定します。[ON] に設定した場合は、学習者の持ち帰りフォルダに自動的にソフトウェアレコーダーのインストーラー(InstallSWR.msiというファイル) がコピーされます。学習者は教材と一緒にこのファイルを持ち帰り、自分のパソコンにインストールして使用することで、授業と同じようにセンテンスや波形表示を使用した学習をすることができます。
映像配信のサイズ	学習者用パソコンで映像教材を表示する場合の表示サイズを設定します。 [可変] 学習者が表示サイズを選べます。 S ：320X240 ピクセルで表示 M ：640X480 ピクセルで表示 L ：全画面で表示 [全画面] 最大化して表示
ポーズ時間 (秒)	学習者用パソコンで音声教材を再生する場合、次のセンテンスとの間に数秒のポーズ(間隔)をおくことができます。ポーズ時間は、0秒～30秒から選択できます。(ポーズ時間が0 秒の場合は、センテンス間にポーズをおかないで続けて再生することを意味します。)
モデル開始時にモデルの教材再生を停止	教材再生を停止[する] を選択している場合は、モデルに指定した学習者の教材再生操作を強制的に停止し、その学習者の声と教員の声を他の学習者に聞かせます。[しない]を選択している場合は、モデルの学習者が再生している教材音声と、その学習者の声および教員の声を他の学習者に聞かせます。([しない] を選択している場合、教員の声はモデルの学習者には聞こえません。)
配信中のコールで配信を停止	配信を停止[する] を選択している場合は、教材送出中にコールやオールコールを実施すると教材送出を停止します。[しない]を選択している場合は、教材送出を継続します。
遅刻者を自習モードでログイン	出欠確定後に学習者がログインした場合に、その学習者を一旦自習モードにする場合は「ON 」を選択します。ログイン後すぐに授業に参加させる場合は「OFF」を選択してください。自習モードについては 72 ページ「10. 学習者用パソコンの制御　自習モードの設定」を参照してください。

「教員毎設定」画面

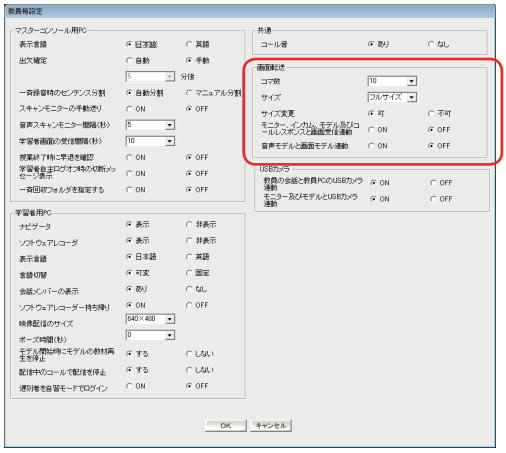


コール音 ON/OFF

教員から学習者への呼びかけ・学習者から教員への呼びかけを「コール」といいます。コール音を ON にすると、呼びかけられた教員または学習者にチャイム音で知らせることができます。
コール音を ON にする場合は [あり] に、OFF に設定する場合は [なし] に設定します。(授業中は変更できません)

メモ 使用するチャイム音は「初期設定」画面で指定します。初期設定については「管理者用操作マニュアル」を参照してください。

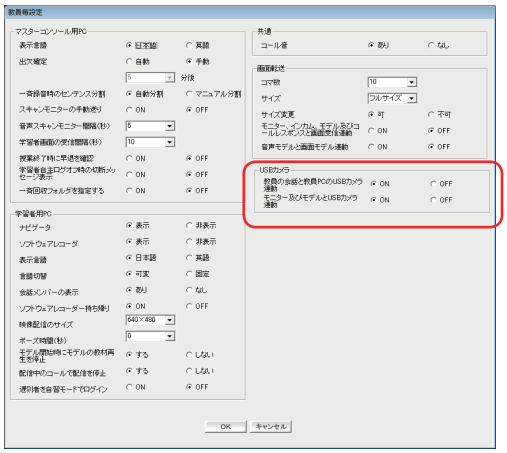
「教員毎設定」画面



画面転送の設定

コマ数	画面転送時の動画のコマ数を設定します。 1 ～ 10 で設定してください。コマ数が多いほうが画面の動きがなめらかになります。(授業中は変更できません)
サイズ	送受信する画面のサイズを指定します。[320x240][640x480][800x600][1024x768][1280x1024][フルサイズ] から選択できます。数字はピクセル単位、[フルサイズ] は画面全体を転送します。(授業中は変更できません)
サイズ変更	マウスで画面のサイズを自由に変えられるようにする場合は [可] に、サイズを固定する場合は [不可] に設定します。(授業中は変更できません)
モニター、インカム、モデル及びコールレスポンスと画面受信連動	モニター、スキャンモニター、インカム、モデル、コールレスポンスをするときには、対象の学習者の操作画面を受信して、教員用パソコンに表示する設定です。画面を受信する場合は [ON] に、受信しない場合は [OFF] に設定します。
音声モデルと画面モデル連動	モデル開始時にモデルとなっている学習者の操作画面を自動的に他の学習者の操作画面上に転送するには「ON」を選択します。転送しない場合は「OFF」を選択してください。

「教員毎設定」画面



USB カメラの設定

これはオプションの機能です

USB カメラを設置したシステムでは、教員毎設定画面に次の設定項目が表示されます。

教員の会話と教員 PC の USB カメラ連動	コール、オールコール、インカムおよびコールレスポンス時に、学習者画面に教員用パソコンの USB カメラの映像 (教員の顔) を表示する場合は [ON] にします。
モニター及びモデルと USB カメラ連動	モニターおよびモデル時に、学習者画面に教員用パソコンの USB カメラの映像 (教員の顔) を表示する場合は [ON] にします。

学習者用パソコンの起動

マスターコンソールから学習者用パソコンを起動させます。

すべての学習者用パソコンを一斉に起動する

メインメニューの [学習者 PC 一斉起動] をクリックすると、すべての学習者のパソコンを一斉に起動します。

特定の学習者用パソコンを起動する

特定の学習者用パソコンを起動する場合は、授業開始後に学習者の座席アイコンを右クリックして [PC 起動] を選択してください。

メモ 学習者が手動で自分のパソコンの電源を入れて授業に参加することも可能です。

3. 授業の開始

■ 履修クラス (授業) の選択と開始 17
■ 学習者のログイン..... 17
■ 学習者がパスワードを忘れた場合 19
■ 出欠確認と記録の保存 20
出席をとる (出欠確定)..... 20
遅刻の記録と対応 21
早退の確認..... 21
授業ごとの出欠情報を確認 1
(「認証あり」を採用しているシステムの場合)..... 22
授業ごとの出欠情報を確認 2
(「認証なし」「統合認証」を採用しているシステムの場合) 23

履修クラス (授業) の選択と開始

1. メインメニューの [履修クラス] のリストからクラス名を選びます。このリストには、あらかじめ登録されている履修クラスが表示されます。
2. [授業画面へ] をクリックすると授業を開始します。
これ以降、学習者のログインを受け付けます。学習者にログインを促してください。

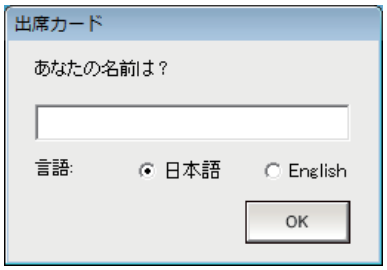
メモ **オートログイン機能について**

[オートログイン] ボタンをクリックして ON にしてから [授業画面へ] をクリックすると、次に述べる学習者用ログイン画面 (出席カード) を省略して、全学習者を強制的に授業にログインさせることができます。
オートログインの選択は、次回の授業時も継続されます。学習者用ログイン画面 (出席カード) を利用してログインさせたいときはオートログインを OFF にしてから [授業画面へ] をクリックしてください。

メモ 教員が [授業画面へ] をクリックするまでは学習者は授業にログインできません。

学習者のログイン

教員が [授業画面へ] をクリックした後、学習者用パソコンで各学習者が授業にログインします。
学習者のログイン方法にはいくつかのパターンがあり、システムの設定によって異なります。(学習者のログイン方法はシステム設定時に決められています。詳細は販売店にお問い合わせください。)

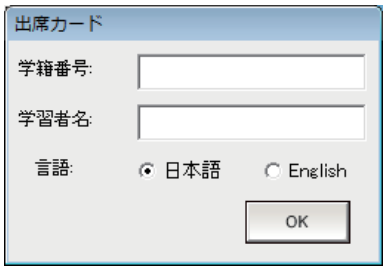


学習者のログイン画面：認証なし

認証なし：学習者が名前を入力してログイン

学習者がログイン画面 (出席カード) に名前を入力して [OK] をクリックすると授業に参加できます。

次のページにつづきます



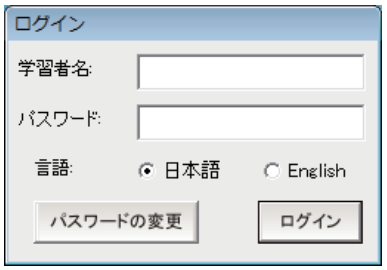
学習者のログイン画面：認証なし

認証なし (学籍番号あり) ：学習者が学籍番号と名前を入力してログイン

学習者がログイン画面 (出席カード) に、学籍番号と名前を入力して [OK] をクリックすると授業に参加できます。

メモ 座席固定モードの利用

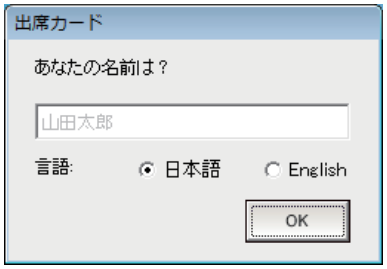
座席固定モードは、履修クラスごとに学習者の座席を指定するモードです。履修クラス登録時に「座席固定」機能を設定しておくと、この履修クラスに参加した学習者の初回ログイン情報 (入力した名前) を記憶します。次回以降同じ学習者用パソコンの出席カード上には、初回と同じログイン情報が自動的に表示されます。学習者は [OK] ボタンをクリックするだけで授業に参加できます。(初回ログイン時の学習者名は教員の許可なく学習者が変更することはできません。学習者名を変更する場合は、そのまま授業にログインしてから教員が「出席カード再配布」を行って、学習者が正しい名前を入力しなおします。出席カードの再配布については 20 ページ「出欠確認と記録の保存」を参照してください。)



学習者のログイン画面：認証あり

認証あり：学習者が名前とパスワードを入力してログイン

事前に履修者として登録されている学習者が、ログイン画面に名前とパスワードを入力して [ログイン] をクリックすると授業に参加できます。事前に登録されていない学習者は参加できません。



学習者のログイン画面：統合認証 (名前やパスワードの入力は不要です。[OK] をクリックするとログインできます。)

統合認証：名前やパスワードを入力せずにログイン

すでに学習者名がログイン画面 (出席カード) に表示されています。(この画面で学習者名を変更することはできません。)
[OK] をクリックすると、この学習者名で授業に参加します。

ここに表示されている学習者名は、学習者用パソコン (Windows Vista) にログオンしたユーザーの [表示名] です。表示されている名前が学習者本人の [表示名] と異なる場合は、一度 Windows をログオフし、再度正しいユーザー名でログオンする必要があります。Windows のログオフはキーボードの [Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押します。「ログオフ」を選択すると Windows をログオフできます。ログオンするには、ユーザー名とパスワードを入力し [OK] をクリックします。

学習者がパスワードを忘れた場合

学習者のログイン方法に「認証あり」を採用しているシステムの場合、学習者はすでに登録されている学習者名とパスワードを入力してログインを行いますが、学習者から「パスワードがわからない」という申し出があった場合は、次のように対応してください。

授業画面

1. パスワードを忘れてしまった学習者の座席アイコンを右クリックします。メニューから [パスワード解除] をクリックすると、学習者がログインできます。

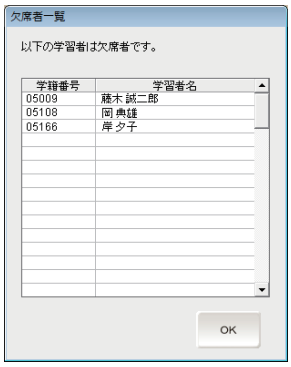
2. 学習者に新しいパスワードを与える必要がある場合は、授業終了後に、CALL システムメインメニューの [学習者ユーザー管理] をクリックし、該当する学習者のパスワードを新しいパスワードに変更してください。

   メモ「学習者ユーザー管理」画面でパスワードを変更するためには、管理者権限を持つ教員ユーザーでシステムにログインする必要があります。管理者権限を持たない教員は、管理者に依頼してください。

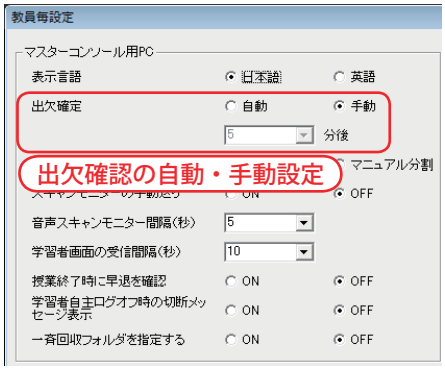
3. 学習者は、次回の授業から新しいパスワードでログインを行うようにします。必要であれば、学習者が学習者用パソコンでパスワードを変更することもできます。
   (学習者用パソコンの操作については「学習者用アプリケーション　操作マニュアル」を参照してください。)

出欠確認と記録の保存

出席者一覧を表示
(ログイン方法に「認証なし」または「統合認証」を採用している場合の例)



欠席者一覧を表示
(ログイン方法に「認証あり」を採用している場合の例)



教員毎設定画面

出席をとる (出欠確定)

1. 授業画面の [出欠確認] をクリックします。
2. 出席者の一覧または欠席者の一覧を表示します。(システムにより異なります。)
   教員が [出欠確認] をクリックする時点でシステムにログインしている学習者を「出席」として扱い、一覧を表示します。ログインしていない学習者は、座席にいる場合でも表示されません。出席をとる前に、学習者にログインを促してください。
3. 一覧の表示内容を確認し、[出欠確定] をクリックします。
   これ以降、授業にログインした学習者は遅刻扱いとなり、自動的に「遅刻」の記録が残ります。

メモ 出席者一覧の保存

出席者一覧の内容を CSV ファイル形式で保存したい場合は [CSV 書出] をクリックして保存してください。(CSV 形式のファイルは、Excel を利用して閲覧できます。)

メモ 出席カードの再配布

学習者のログイン方法に「認証なし」を採用しているシステムの場合、全学習者にログインをやり直しさせることができます。学習者にログインをやり直しさせたい場合は [出席カード再配布] をクリックします。すべての学習者用パソコンにログイン画面 (出席カード) が表示されますので、もう一度ログイン操作を行うように指示します。
特定の学習者だけにログインをやり直しさせる場合は、座席アイコンを右クリックして、メニューから [出席カード再配布] をクリックします。対象の学習者用パソコンにログイン画面 (出席カード) が表示されますので、もう一度ログイン操作を行うように指示します。
再度、授業画面の [出欠確認] をクリックすると、新しいログイン内容で出席者一覧が表示されます。

メモ 出席者一覧の印刷

プリンターが接続されているシステムでは、[印刷] ボタンで出席者一覧をプリントアウトすることができます。

メモ 自動出欠確定

教員毎設定の「出欠確定」部分で「自動」を選択しておくと、授業開始後一定時間経過後に自動的に出欠確定をすることができます。出欠確定までの時間は、教員毎設定で 5 分～ 90 分のあいだで選択できます。

自動出欠確定が実施される前に、出欠確認画面の [出欠確定] ボタンで手動で出欠確定した場合は、指定時間が経過しても自動出欠確定を行いません。また、自動出欠確定が実施された後に手動で出欠確定した場合は、手動で実施した確定内容に出欠データが更新されます。

遅刻の記録と対応

出欠確定後にログインした学習者は「遅刻」となります。(出欠確定の操作については前ページの解説を参照してください。) 遅刻した学習者がシステムにログインすると、授業画面の座席アイコンに遅刻マークが表示されます。教員は次のように処理してください。

●この学習者を遅刻として扱う (記録する) 場合

そのまま授業を続けてください。
(座席アイコンには遅刻マーク が表示されています。)

●この学習者を通常の出席扱いにする場合

座席アイコンを右クリックして [遅刻解除] を選択してください。遅刻マークが消え、この学習者は通常の出席として記録されます。

●遅刻した学習者も含め、全員を通常の出席として扱う場合

授業画面の [出欠確認] をクリックして、「出欠確認」ダイアログでもう一度 [出欠確定] をクリックします。それまでの遅刻者も通常の出席として記録されます。

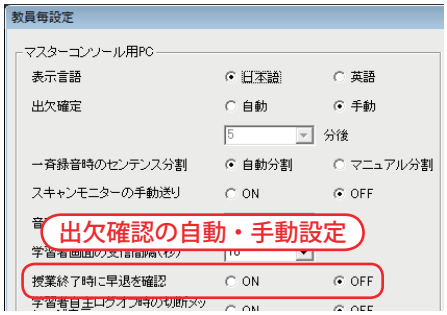
メモ 遅刻した学習者に教材ファイルを再度転送する必要はありません。遅刻した学習者は、システムにログインするとすぐに授業に参加することができます。(すでに配布済みの教材ファイルでも、システムにログインすると閲覧が可能になります。)

早退の確認

ログイン方法に「認証なし」または「統合認証」を採用しているシステムでは、授業終了前に早退者を確認することができます。早退者の確認は、全学習者の画面上に確認ボタンを表示させ、各学習者にクリックさせてその結果を記録します。(クリックしない学習者は座席にいないものとみなし、「早退」となります。)

出席者一覧

1. 授業画面の [出欠確認] をクリックします。
2. 出席者一覧画面の [早退確認] をクリックします。
3. 「早退を確認します」というメッセージが表示されますので [開始] をクリックしてください。
4. 全学習者の画面上に確認メッセージが表示されます。メッセージ画面の [OK] ボタンをクリックするよう、学習者に促します。
5. [OK] をクリックした学習者の座席アイコン上には「○」が表示されます。[OK] をクリックしない学習者の座席アイコンには「！」が表示されます。
6. 早退確認を〆切るには授業画面の [確認終了] をクリックしてください。
「！」が表示されていた学習者は早退扱いとなり、「早退」の記録が残ります。(出席者一覧の早退欄に表示されます)



教員毎設定画面

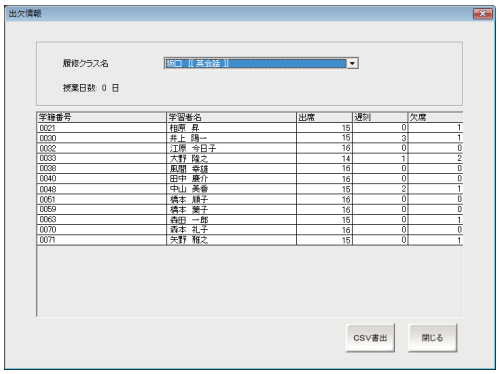
メモ **自動早退確認**

教員毎設定の「授業終了時に早退を確認」部分を「ON」にしておくと、授業終了時に必ず早退確認を実施することができます。
授業終了時に自動的に「早退を確認します」というメッセージが表示されますので、上記の手順 3 と同様に [開始] をクリックして早退者を確認することができます。

授業ごとの出欠情報を確認 1
(「認証あり」を採用しているシステムの場合)

出欠確認と遅刻処理の情報はデータベースに記録されます。この情報をもとに、現在までの出欠状況を確認することができます。

メインメニュー



出欠情報表示の画面

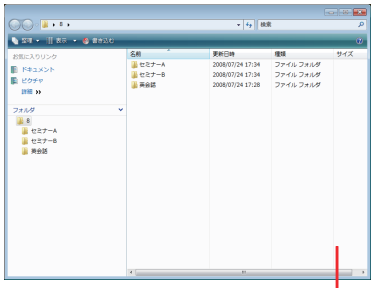
1. メインメニューの [出欠情報収集] をクリックします。
2. 「出欠情報」画面が表示されますので、[履修クラス名] のリストをクリックして履修クラスを選択してください。
3. 授業の合計日数と学習者ごとの出欠・遅刻状況が一覧表示されます。
   この結果を保存しておきたい場合は [CSV 書出] をクリックします。「名前を付けて保存」画面が表示されますので、ファイル名を入力して保存してください。CSV 形式のファイルで保存されます。(CSV 形式のファイルは、Excel を利用して閲覧できます。)
4. 「出欠情報」画面を閉じる場合は [閉じる] をクリックしてください。

授業ごとの出欠情報を確認２
(「認証なし」「統合認証」を採用しているシステムの場合)

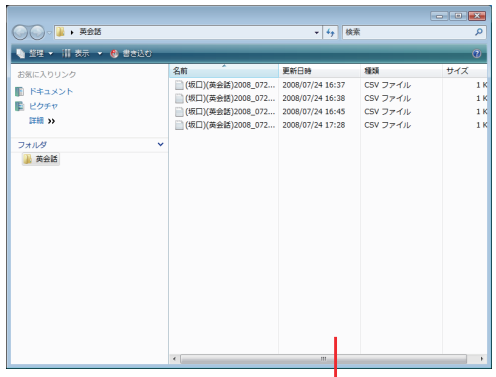
出欠確認の情報と遅刻・早退情報などは各授業毎に CSV 形式で保存されます。ファイルは教員名毎・授業名毎のフォルダに保存されています。

メインメニュー

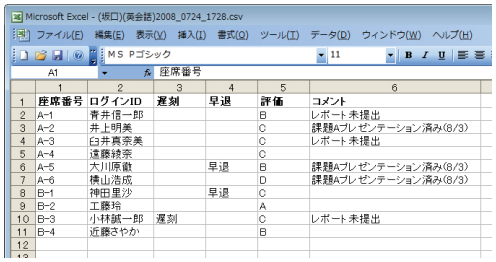
履修クラスを選択していない場合は、フォルダ分けして表示



フォルダ内に各クラスの出欠情報が保存されています



出欠情報ファイルを表示
(出欠情報の例)



	1	2	3	4	5	6
1	座席番号	ログインID	遅刻	早退	評価	コメント
2	A-1	青井信一郎			B	レポート未提出
3	A-2	井上明美			C	課題Aプレゼンテーション済み(8/3)
4	A-3	臼井真奈美			C	レポート未提出
5	A-4	遠藤綾奈			C	
6	A-5	大川原徹		早退	B	課題Aプレゼンテーション済み(8/3)
7	A-6	横山浩成			D	課題Aプレゼンテーション済み(8/3)
8	B-1	神田里沙		早退	C	
9	B-2	工藤玲			A	
10	B-3	小林誠一郎	遅刻		C	レポート未提出
11	B-4	近藤さやか			B	
12						

1. メインメニューの [出欠情報収集] をクリックします。このとき、メインメニューの「履修クラス」選択欄でクラス名を選択している場合は、その履修クラスの出欠情報ファイルを表示します。「履修クラス」選択欄でクラス名を選択していない場合は、現在ログインしている教員が担当しているすべての履修クラスの出欠情報をフォルダごとに表示します。

2. 出欠情報ファイルは授業終了時の情報をもとに自動的に作成され、保存されます。
ファイルは CSV 形式です。(CSV 形式のファイルは、Excel を利用して閲覧できます。)
ファイルには、(教員名)(クラス名) 授業終了時刻のように名前が付けられています。

   例：(浅田)(英会話)2006_0901_1520.csv

   * 浅田先生の英会話クラス、2006 年 9 月 1 日 15 時 20 分に授業終了

3. 参照したいファイルをダブルクリックしてください。Excel がインストールされている場合は、Excel で内容を表示します。

CSV ファイルには次の情報が含まれています。
- ●座席番号
- ●学籍番号 (ログイン時に入力した学籍番号を表示します)
- ●学習者名 (ログイン時の学習者名です)
- ●遅刻 (遅刻扱いの学習者には「遅刻」と表示されます)
- ●早退 (早退扱いの学習者には「早退」と表示されます)
- ●評価 (授業中に評価を記録した場合に表示されます)
- ●コメント (授業中にコメントを記録した場合に表示されます)

メモ 上記のうち、学籍番号はシステムの設定によって記録されないことがあります。

メモ 評価およびコメントについては「7. 学習状況の確認と評価」を参照してください。

4. 教材の送出とダビング

システムに接続している AV 機器 (カセット、CD、DVD、VTR など) で再生している音声教材や映像教材を送出したり、学習者のためにダビングしたりすることができます。

■ 学習者用パソコンへ教材送出 (音声・映像) 25
■ メインモニター (プロジェクター) へ教材送出 26
■ サブモニター (センターモニター) へ教材送出 27
■ 教材送出中の制御 28
消音 28
話速ロック / 話速制御 28
マイクミックス 28
送出クリア 28
■ AV 機器の制御 29
■ ボリューム調整 30
■ 送出教材のダビング (一斉録音・一斉録画) 31
音声教材のダビング (一斉録音) 31
映像教材のダビング (一斉録画) 31
■ 書画カメラのメモリー読み込み (AV-P960 Viewer) .. 32

学習者用パソコンへ教材送出 (音声・映像)

学習者用パソコンとマスターコンソールのヘッドホンへ教材を出力します。

1. 操作パネルは「AV コントロール」を使用します。
使用する AV 機器の電源を入れ、教材テープやディスクをセットしてください。

2. 「出力選択」の部分で [学習者用 PC] の AV 機器選択部分をクリックすると、画面上に AV 機器のリストが表示されますので、使用する AV 機器をクリックして選択します。
学習者用パソコンに送出できる AV 機器の例は次のとおりです。(システムの構成によって利用できるものが異なります。)

DVD	DVD の音声と映像を出力します。 (映像オプション有のシステムのみ)
DVD(音声)	DVD の音声のみを出力します。
VTR	VTR の音声と映像を出力します。 (映像オプション有のシステムのみ)
VTR(音声)	VTR の音声のみを出力します。
LD	LD の音声と映像を出力します。 (映像オプション有のシステムのみ)
書画カメラ	書画カメラの映像を出力します。 (映像オプション有のシステムのみ)
カセット	カセットの音声を出力します。
MD	MD の音声を出力します。
CD	CD の音声を出力します。
内蔵 CD	マスターコンソール内蔵の CD の音声を出力します。
PC オーディオ	WAVE ファイルを指定して、その音声を出力します。

3. 「出力選択」部分の [学習者用 PC] をクリックして ON にします。緑色表示のときが ON の状態です。
このとき、AV 機器を再生するとプレビューモニターや教員用ヘッドホンで教材の内容を確認できます。AV 機器の再生は AV 機器制御ボタンを操作するか、各機器のリモコンなどを使用してください。

4. 学習者への教材送出を開始するには [学習者用 PC] の [出力 ON/OFF] をクリックしてください。緑色表示のときが出力 ON の状態です。

学習者は、ヘッドセットから音声教材を聞くことができます。映像教材は学習者用パソコンのモニターに表示されます。

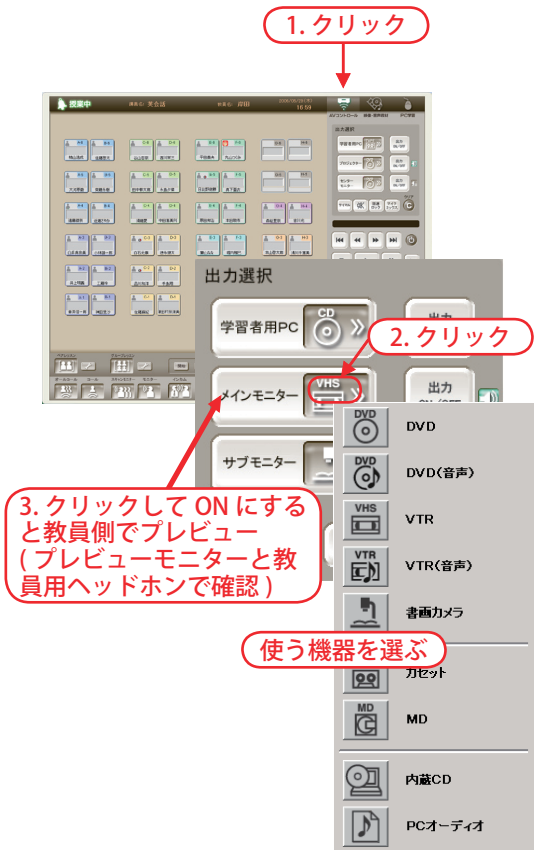
(手順は次のページにつづきます)

5. 教材送出を終了するには、もう一度 [学習者用 PC] の [出力 ON/OFF] をクリックして OFF(グレー表示) にし、AV 機器の再生を停止します。

注意! 学習者用パソコンに映像教材を送出しているときに学習者画面の一覧表示を行うと、学習者用パソコンで映像がスムーズに再生されない場合があります。この場合、学習者画面の一覧表示を解除してください。
学習者画面の一覧表示については 64 ページ「9. 画面送受信」を参照してください。

メインモニター (プロジェクター) へ教材送出

教室内のプロジェクター (スクリーン) やルームスピーカーへ教材を出力します。



1. 操作パネルは「AV コントロール」を使用します。
使用する AV 機器の電源を入れ、教材テープやディスクをセットしてください。

2. 「出力選択」の部分で [メインモニター] の AV 機器選択部分をクリックすると、画面上に AV 機器のリストが表示されますので、使用する AV 機器をクリックして選択します。
メインモニターに送出できる AV 機器の例は次のとおりです。(システムの構成によって利用できるものが異なります。また、[メインモニター] ボタンはシステムの設定により [プロジェクター] と表示されている場合があります。)

DVD	DVD の音声と映像を出力します。
DVD(音声)	DVD の音声を出力します。
VTR	VTR の音声と映像を出力します。
VTR(音声)	VTR の音声を出力します。
LD	LD の音声と映像を出力します。
書画カメラ	書画カメラの映像を出力します。
カセット	カセットの音声を出力します。
MD	MD の音声を出力します。
CD	CD の音声を出力します。
教員用 PC	教員用パソコンの音声と映像を出力します。

3. 「出力選択」部分の [プロジェクター] をクリックして ON にします。緑色表示のときが ON の状態です。
このとき、AV 機器を再生するとプレビューモニターや教員用ヘッドホンで教材の内容を確認できます。AV 機器の再生は AV 機器制御ボタンを操作するか、各機器のリモコンなどを使用してください。

4. メインモニターへの教材送出を開始するには [メインモニター] の [出力 ON/OFF] をクリックしてください。緑色表示のときが出力 ON の状態です。

学習者は、ルームスピーカーで音声教材を聞くことができます。映像教材は教室内のスクリーンなどに表示されます。

5. 教材送出を終了するには、もう一度 [メインモニター] の [出力 ON/OFF] をクリックして OFF(グレー表示) にし、AV 機器の再生を停止します。

サブモニター (センターモニター) へ教材送出

サブモニター (センターモニター) を設置している場合、教材を送出します。

これはオプションの機能です

サブモニター (センターモニター) に教材を送出する場合も、メインモニターと同じように操作を行なってください。
(システムの構成によって利用でき AV 機器が異なります。また、[サブモニター] ボタンはシステムの設定により [センターモニター] と表示されている場合があります。)

メモ　メインモニターとサブモニターの出力が共に ON のときは、音声切替ボタンで教室内のスピーカーに出力する音声を切り替えることができます。

教材送出中の制御

教材送出中は次の機能を制御することができます。

消音

送出音声を一時的に消すことができます。消音にするには消音ボタン をクリックしてください。

消音を解除するには、もう一度クリックします。

話速ロック / 話速制御

話速ロック / 話速制御機能を利用すると、学習者用ソフトウェアレコーダーの話速変換機能をロックし、使用できないようにします。また、オーディオユニットを使用したシステムでは、オーディオユニットによるゆっくり再生機能を制御できます。システムによって [話速ロック] または [話速制御] と表示され、操作が異なります。詳細は 51 ページ「6. 会話練習とコミュニケーション　話速制御」を参照してください。

マイクミックス

マイクミックス機能とは、教材送出中に教員がヘッドセットのマイクを通して学習者に呼びかける機能です。教材の音声と教員の呼びかける声を一緒に聞くことができます。
この機能を有効にするには教材送出中に [マイクミックス] ボタンをクリックしてください。(ボタンが緑色表示のときが有効です。) 解除する場合は、もう一度ボタンをクリックしてください。

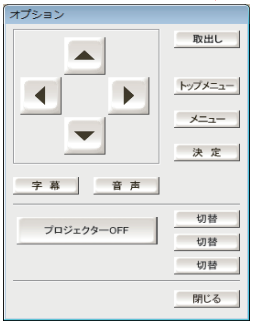
メモ マイクミックス有効時に一斉録音を行うと、教員の声も録音されます。一斉録画の場合はマイクミックスが強制的に解除され、教員の声は録音されません。

送出クリア

クリアボタン をクリックするとすべての教材送出を OFF にし、AV 機器の再生も同時に停止します。話速ロック / 話速制御機能は、クリアボタンをクリックするとロックされた状態 (緑色に点灯) に戻ります。サイマル機能や消音設定も解除します。
(サイマル機能については、52 ページ「6. 会話練習とコミュニケーション　サイマル」を参照してください。)

AV 機器の制御

教材送出時に AV 機器制御ボタンを操作して各機器の再生制御ができます。



オプションダイアログ

AV 機器は画面から遠隔操作が可能です。対象の機器によって操作できるボタンが異なります。

- [電源]　AV 機器の電源を ON/OFF します。
- [再生]　AV 機器を再生します。
- [一時停止]　一時停止します。
- [停止]　AV 機器を停止します。
- [後スキップ]　トラックを戻します。
- [巻戻し]　巻戻しをします。
- [早送り]　早送りをします。
- [前スキップ]　トラックを送ります。
- オプション　オプションダイアログを開きます。オプションダイアログは、主に DVD を制御する場合に使用します。

取出し.....テープまたはディスクを取り出します。
トップメニュー.....DVD のトップメニューを表示します。選択はカーソルを利用してください。
メニュー.....DVD のメニューを表示します。選択はカーソルを利用してください。
決定.....選択した映像や項目を再生します。
字幕.....字幕に関する切り替えを行います。
音声.....音声に関する切り替えを行います。
閉じる.....オプションダイアログを閉じます。
プロジェクター OFF ..プロジェクターの電源を切ります。
切替.....DVD/VTR などハイブリッド機の切替えをします。
(機器によって表示されるものが異なります。)

使用できる制御ボタンの例 (●印の機能が使用できます)

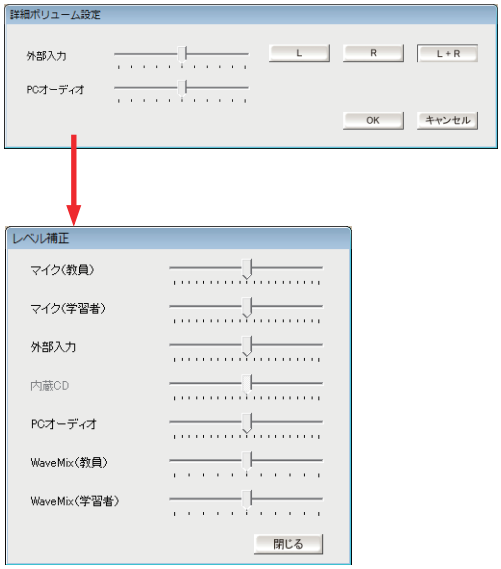
	電源	再生	一時停止	停止	後スキップ	巻戻し	早送り	前スキップ	オプション
DVD	●	●	●	●	●	●	●	●	●
DVD(音声)	●	●	●	●	●	●	●	●	●
VTR	●	●	●	●	●	●	●	●	●
VTR(音声)	●	●	●	●	●	●	●	●	●
LD	●	●	●	●	●	●	●	●	●
書画カメラ	AV 機器制御ボタンは使用できません								
カセット	●	●	●	●	●	●	●	●	●
MD	●	●	●	●	●	●	●	●	●
CD	●	●	●	●	●	●	●	●	●
内蔵 CD	×	●	●	●	●	×	×	●	×
PC オーディオ	×	●	●	●	●	×	×	●	×
教員用 PC	AV 機器制御ボタンは使用できません								

ボリューム調整

教員側のヘッドホン、マイクおよびルームスピーカーのボリューム調整は画面で操作することができます。

ボリューム調整

詳細ボリューム調整の画面



レベル補正は、0 ～ 200 のあいだで調整できます。教員・学習者共に同じレベルで音声を出力する場合は 100(真ん中) に設定します。これより右 (101 ～ 200) に設定するほど学習者への出力のほうが大きくなります。また、左 (0 ～ 99) に設定するほど教員への出力のほうが大きくなります。

WaveMix(教員) は、AV 機器の音声出力中、マイクミックスを ON にしているときに学習者に聞こえる音量のレベルで、0 ～ 100 のあいだで調整できます。
WaveMix(学習者) は、学習者の発話をモニターするときにマスターコンソール (教員) に聞こえる音量のレベルで、0 ～ 100 のあいだで調整できます。尚、学習者が録音をしている間のモニター音量のレベルはマイク (学習者) の調整に準じます。

ボリュームの調整はつまみを左右にドラッグして行います。
右に動かすとボリュームが大きく、左に動かすとボリュームが小さくなります。

マスターコンソールのマイク音量を調節します。

マスターコンソールのヘッドホン音量を調節します。

教室内のスピーカー音量を調節します。

をクリックすると「詳細ボリューム設定」画面が表示されます。この画面では、各入力設定の音量調節と左右の音声出力の切り替えができます。

外部入力	DVD(音声)、VTR(音声)、カセット、MD、CD の音量を調節します。[L] は左音声のみ、[R] は右音声のみ、[L+R] は両方の音声を出力します。
PC オーディオ	内蔵 CD 及び WAVE ファイル再生時の音量を調整します。

さらに、[レベル補正] をクリックすると、教員・学習者それぞれに対する音声出力のレベルを調整することができます。「レベル補正」画面でレベル調整しておくと、詳細ボリューム調整画面でボリュームを調整するときも、教員・学習者それぞれに対する出力レベルを保ったままボリュームを調整することが可能です。
(レベル補正は管理者権限を持つ教員名でログインした場合のみ操作できます。)

レベル補正の設定が終了したら [閉じる] をクリックすると、設定が有効になります。

注意! レベル補正の調整効果はシステムによって異なります。また、これらの値は初期のシステム設定時に適切な状態に調整されていますので、授業毎に調整を行う必要はありません。

送出教材のダビング (一斉録音・一斉録画)

学習者に送出している音声・映像教材を同時にダビングします。ダビングした教材は、各学習者が教材として利用できます。

音声教材のダビング (一斉録音)

学習者用パソコンに送出されている音声教材を録音します。[一斉録音] をクリックすると、録音を開始します。終了する場合は、もう一度 [一斉録音] をクリックしてください。
一斉録音開始時に学習者用パソコンへの送出が ON になっていない場合は自動的に ON になり、そのとき選ばれている教材が送出・録音されます。

一斉録音は、音声教材の無音部分を自動的に感知して、センテンス (インデックス) を構成しながら録音を行ないます。但し、「教員毎設定」の「一斉録音時のセンテンス分割」でマニュアル分割が選択されている場合は、録音中に [マニュアル分割] ボタンをクリックするごとにセンテンス分割が行われます。(センテンス分割の設定については 12 ページ「2. 授業前の準備　教員毎設定　マスターコンソールの設定」を参照してください。)

録音した音声教材は [一斉録音] ボタンの上部に表示されたファイル名で、WAV 形式 (*.wav) でサーバーに保存されます。学習者はソフトウェアレコーダーの「授業教材」リストからこのファイルを選択し、すぐに再生することができます。

映像教材のダビング (一斉録画)

学習者用パソコンに送出されている映像教材を録画します。[一斉録画] をクリックすると、録画を開始します。終了する場合は、もう一度 [一斉録画] をクリックしてください。
一斉録画開始時に学習者用パソコンへの映像教材送出が ON になっていない場合は自動的に ON になり、そのとき選ばれている教材が送出・録画されます。但し、DVD や VTR などの映像教材が選ばれていない場合は、録画を開始することができません。

一斉録画した映像教材は [一斉録画] ボタンの上部に表示されたファイル名で、MPEG 形式 (*.m2t) または WMV 形式 (*.wmv) でサーバーに保存されます。学習者はソフトウェアレコーダーの「授業教材」リストからこのファイルを選択し、すぐに再生することができます。

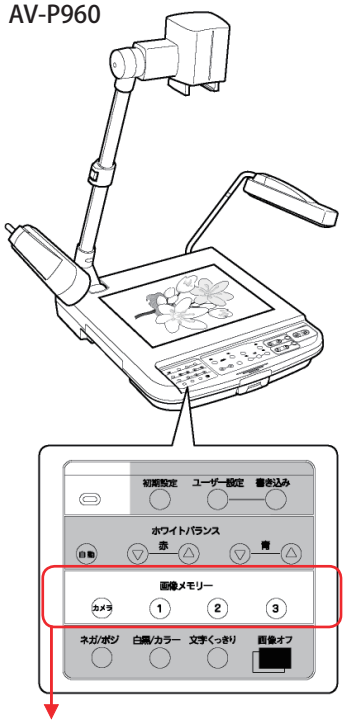
注意! 1 回の一斉録音・一斉録画では最長 15 分間の録音・録画が可能です。15 分経過すると録音・録画は自動的に終了します。録音・録画終了後の処理にしばらく時間がかかることがありますが、そのままお待ち下さい。

書画カメラのメモリー読み込み (AV-P960 Viewer)

書画カメラ (AV-P960 教材提示装置) のカメラモードを利用して撮影した静止画像を、教員用パソコンで表示する機能です。画面転送機能とあわせて利用すると、高品位な静止画像を学習者に送ることができます。

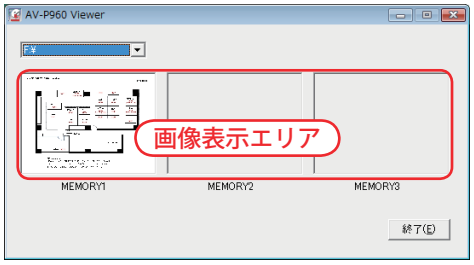
AV-P960 Viewer

AV-P960



[カメラ] ボタンと
画像メモリーボタン [1] ～ [3]

AV-P960 Viewer



画像をダブルクリックすると、全画面表示になります。

1. 教員用パソコンのデスクトップの [AV-P960 Viewer] アイコンをダブルクリックして AV-P960 Viewer(表示用アプリケーション) を起動します。
2. AV-P960 のメモリーはリムーバブルドライブとして認識されます。画面のドライブ選択部分で当該ドライブを選択してください。
3. AV-P960 に資料をセットします。(サイズ・明るさ・フォーカスの調整については、AV-P960 の取扱説明書を参照してください。)
4. AV-P960 の操作パネルの [カメラ] ボタンを押します。
5. AV-P960 では 3 つの静止画像をメモリーに記憶させておくことができます。画像メモリーボタン (1 ～ 3 のいずれか) を 2 秒以上押し続けると、資料をキャプチャーします。(画像メモリーボタンはボタンランプの点滅が終わるまで押し続けてください。ボタンランプの点滅が終了し、消灯したらキャプチャー完了です。)
6. 続けてキャプチャーする場合は、上記の手順 3 から手順 5 を繰り返します。
7. 保存された静止画像は、教員用パソコンの AV-P960 Viewer 上にサムネイル表示されます。画像表示エリアの MEMORY1 ～ 3 が、AV-P960 の画像メモリーボタン 1 ～ 3 に対応しています。

   画像上をダブルクリックすると、全画面表示になります。この状態で、マスターコンソールを操作して画面転送を行うと、AV コントロール機能を利用して学習者用パソコンに AV-P960 の映像を出力する場合よりも高品位な画像を転送することができます。

   サムネイル表示に戻す場合は、もう一度ダブルクリックしてください。
8. AV-P960 Viewer を終了する場合は [閉じる] ボタンをクリックしてください。

メモ AV-P960 のメモリーに保存した静止画像は、書画カメラの電源を切ると消去されます。

メモ AV-P960 に SD カードが挿入されている場合は、AV-P960 Viewer を使用する前に抜いてください。

5. 音声・映像ファイルの利用

音声ファイルや映像ファイルを教材として学習者に転送し、利用することができます。

■ 教材の準備 34
使用できるファイルの種類 34
データベースに登録 34
■ 教材ファイルの公開と転送 35
教材ファイルの公開 35
教材ファイルの転送 36
■ USB メモリ等から教材ファイルを転送 37
■ 練習録音ファイルの回収 38
練習録音ファイルを一斉回収 38
練習録音ファイルを個別に回収 39

教材の準備

使用できるファイルの種類

CALL システムで教材として使用できる音声ファイル・映像ファイルには次のようなものがあります。

- WAV 音声ファイル (.wav)
- MP3 音声ファイル（.mp3）
- MPEG 映像ファイル (.mpg.mpeg.m2t)* 注
- WMV 映像ファイル (.wmv)
- AVI 映像ファイル (.avi)
- ASF 映像ファイル (.asf)

* 注 :MPEG 映像ファイル (.m2t) は、授業中に一斉録画をしたときに作成される映像ファイルです。

データベースに登録

上記のようなファイルを CALL システムサーバー内のデータベースに登録しておくと、学習者に転送して教材として利用することができます。(映像ファイルの場合、種類によっては学習者用パソコンに別途デコーダソフトや CODEC のインストールが必要になる場合があります。)
ファイルをデータベースに登録するには、教材フォルダブラウザというアプリケーションを使用すると便利です。教材フォルダブラウザについての詳細は 85 ページ「15. 教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理)」を参照してください。

教材作成アプリケーションについて

音声教材 (WAV ファイル) を作成する場合には「教材作成アプリケーション」を使用すると便利です。教材作成アプリケーションでは、音声取り込み後にセンテンスの分割や原文・訳文の表示設定ができるので、充実した教材を準備することができます。教材作成アプリケーションについての詳細は、「教材作成アプリケーション 操作マニュアル」(PDF ファイル) を参照してください。

MP3 音声ファイルについて

教材として使用できる MP3 ファイルの仕様は次の通りとなります。

MP3 ファイルフォーマット	：RIFF/WAVE、ID3v2.2、ID3v2.3
ビットレート	：128kbps、160kbps、192kbps、224kbps、256kbps、320kbps
サンプルレート	：44.100kHz、48,000kHz
チャンネル	：モノラル、ステレオ（ジョイントステレオ）
時間	：15 分以下

ID3 タグ情報が付加された MP3 ファイルを教材として使用する場合、ID3 タグ情報は削除されます。

教材ファイルの公開と転送

サーバーのデータベースに登録 (保存) された音声ファイルや映像ファイルは、「公開」や「転送」をすると学習者が利用できるようになります。

ソフトウェアレコーダー (学習者)

教材ファイルの公開

「公開」された教材は、自習モードに設定されている学習者に限り利用することができます。

1. 操作パネルは「映像・音声教材」を使用します。(クリックして切り替えます。)

2. 「データベース」の部分にはデータベースのフォルダが表示されています。各フォルダの [＋] マークをクリックして登録されている音声・映像ファイルを表示します。公開したいファイルにチェックマークを付けてください。

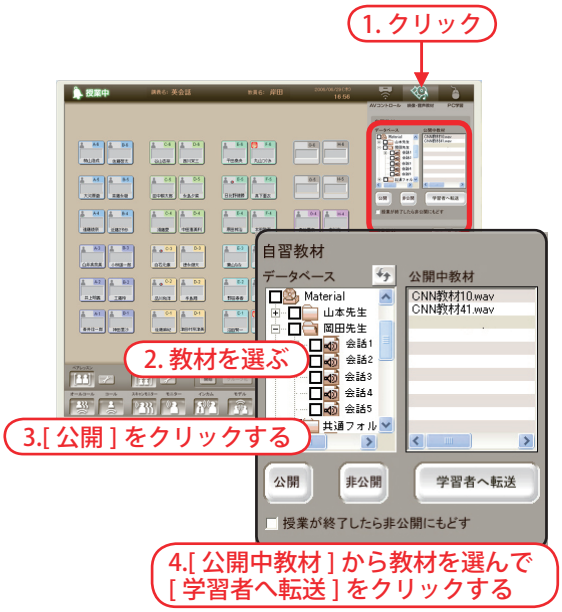
メモ 授業中でもデータベースフォルダに教材を追加・削除することが出来ます。
データベースフォルダに教材を追加又は削除した後 をクリックすると、データベースを最新の状態に更新することが出来ます。
データベースフォルダにアクセスするには、「教材フォルダブラウザ」を使用します。教材フォルダブラウザについては、88 ページ「15. 教材フォルダブラウザ（教材の登録と管理）」を参照してください。

3. [公開] をクリックすると、チェックマークを付けたファイルが、画面右側の「公開中教材」部分に追加されます。この「公開中教材」リストに表示されているファイルが、現在公開中の音声・映像ファイルです。

自習モードになっている学習者は、ソフトウェアレコーダーの「自習教材」リストから公開中の教材ファイルを使用することができます。(自習モードについては 72 ページ「10. 学習者用パソコンの制御　自習モードの設定」を参照してください。)

4. 公開を終了するには、「公開中教材」リストでファイルをクリックして選択し [非公開] ボタンをクリックします。

メモ [授業が終了したら非公開にもどす] をチェックしておくと、この授業で公開した教材は授業終了時に自動的に非公開となります。



ソフトウェアレコーダー (学習者)

教材ファイルの転送

「転送」された教材は、すべての学習者が利用できます。

1. 操作パネルは「映像・音声教材」を使用します。(クリックして切り替えます。)
2. 前ページ「教材の公開」の手順に従って、ファイルを公開します。
3. 「公開中教材」リストから、転送したいファイルをクリックして選択します。

メモ 複数のファイルを選択したい場合は、キーボードの Ctrl キーを押しながら、2 つ目以降のファイルを選択します。

4. [学習者へ転送] をクリックすると、下段の「転送済み教材」部分に追加されます。この「転送済み教材」リストに表示されているファイルが、学習者に転送された教材ファイルです。

すべての学習者は、ソフトウェアレコーダーの「授業教材」リストから転送済み教材ファイルを使用することができます。

5. 転送を解除する場合は「転送済み教材」リストでファイルをクリックして選択し [削除] ボタンをクリックします。

メモ 転送済み教材 (授業教材) には、一斉録音や一斉録画でダビングした教材ファイルも含まれています。これらのファイルはデータベースに登録されていないので、ここで [削除] をした場合は復旧することができません。一斉録音や一斉録画でダビングした教材ファイルをデータベースに登録する場合は、授業終了後に教材フォルダブラウザを使用して、教材ファイルを登録してください。教材フォルダブラウザについての詳細は 88 ページ「15. 教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理)」を参照してください。

USB メモリ等から教材ファイルを転送

USB メモリなどのリムーバブルメディアで音声ファイルや映像ファイルを持参した場合は、それらのメディアから直接学習者に転送することができます。

1. 持参したメディア (USB メモリや CD-R など) をマスターコンソールにセットします。
2. 操作パネルは「映像・音声教材」を使用します。(クリックして切り替えます。)
3. 「転送済み教材」部分の [教材選択と転送] ボタンをクリックします。

   教材ファイルを選択する画面が表示されますので、転送したい音声・映像ファイルが保存されている場所 (USB メモリの場合はリムーバブルディスク、CD-R の場合は CD ドライブなど) を指定し、対象のファイルを選択します。
4. [開く] をクリックすると、選択したファイルが学習者に転送されます。(転送済み教材リストに追加され、他の転送済み教材と同様に利用できます。)
5. 転送を解除する場合は「転送済み教材」リストでファイルをクリックして選択し [削除] ボタンをクリックします。

練習録音ファイルの回収

転送した教材ファイルを使用して学習者が練習録音を行うと、各学習者用パソコン内に録音ファイルが保存されます。教員はこれらの練習録音ファイルを回収することができます。

回収フォルダ

練習録音ファイルを一斉回収

録音済みの全学習者の練習録音ファイルを一斉に回収します。

1. 操作パネルは「映像・音声教材」を使用します。(クリックして切り替えます。)

2. [一斉回収] をクリックすると、回収を始めます。回収中は各学習者の座席アイコンに回収状況を表示します。

録音ファイルを回収中です。

回収が終了しました。

回収に失敗しました。

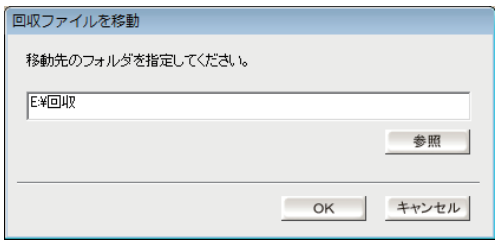
回収するファイルがありません。
(練習録音がされていません。)

メモ 教員毎設定で「回収フォルダ指定」が ON になっている場合、[一斉回収] ボタンをクリックすると「教材回収」ダイアログが表示されるので、回収フォルダを指定します。

3. 回収終了後に [回収フォルダ] をクリックすると、回収したファイルの保存フォルダを表示します。(このフォルダには、学習者がソフトウェアレコーダーの [提出] をクリックして自主的に提出した練習録音ファイルも含まれています。)

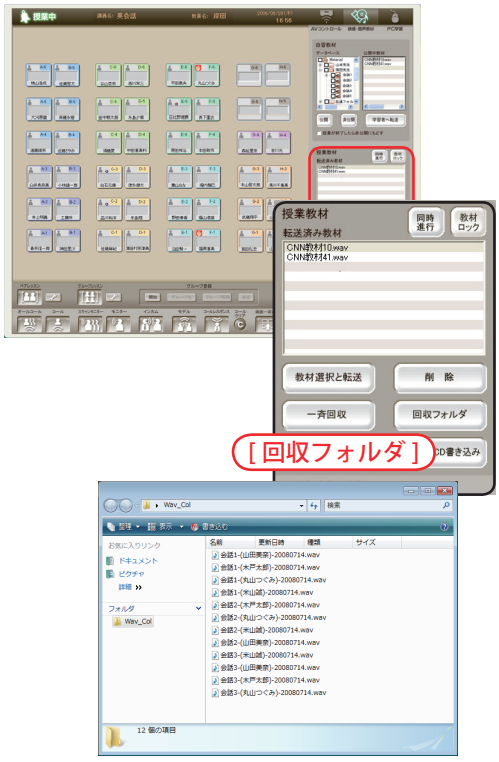
練習録音ファイルには、教材ファイル名に学習者名と授業の日付を加えたファイル名が自動的に付けられます。
(例 1)「会話 1-(山田美奈)-20061003.wav」
(例 2)「会話 1-(山田美奈)-20061003.mp3」
wav または mp3 の形式は、システムの設定によってあらかじめ決められています。

4. 回収後に[回収ファイルを移動]をクリックすると、回収フォルダ内にある録音ファイルを、指定した 1 つのフォルダにまとめます。連続して回収を行なう場合は、次の回収を始める前に[回収ファイルを移動]をクリックして、今回収したファイルを 1 つのフォルダにまとめて分けておくと便利です。



メモ 教員毎設定で「回収フォルダ指定」が ON になっている場合、[回収ファイルを移動] ボタンは使用できません。

メモ 回収操作は、転送済み教材 (授業教材) のファイルや録音ファイルを学習者から教員に戻す操作ではありません。学習者用パソコンからファイルをコピーする操作です。したがって、学習者は録音ファイルを回収された後でも回収前と同じ状態で学習を続けることができます。



練習録音ファイルを個別に回収

特定の学習者の練習録音ファイルを回収します。

1. 練習録音ファイルを回収したい学習者の座席アイコンを右クリックします。複数の学習者からファイルを回収したい場合は、キーボードの Ctrl キーを押しながら学習者を選択して、右クリックしてください。(座席レイアウト上をマウスでドラッグすると、その範囲に含まれる学習者をすべて選択することができます。)

2. 右クリックメニューから「回収 (映像・音声教材)」を選択すると録音ファイルが回収されます。
回収中は各学習者の座席アイコンに回収状況を表示します。

録音ファイルを回収中です。

回収が終了しました。

回収に失敗しました。

回収するファイルがありません。
(練習録音がされていません。)

メモ 教員毎設定で「回収フォルダ指定」が ON になっている場合、右クリックメニューの [回収（映像・音声教材）] を選択すると、「教材回収」ダイアログが表示されるので、回収フォルダを指定します。

3. 回収した録音ファイルは、一斉回収の場合と同様に [回収フォルダ] をクリックすると表示されます。

6. 会話練習とコミュニケーション

授業中は、学習者の発音を確認したり学習者と会話したりすることができます。また、教員の設定によって学習者同士のグループ練習も可能です。

■ 同時進行モード.....41
■ ペアレッスン.....42
■ グループレッスン.....43
■ グループ登録.....44
■ チャット.....45
■ 会話録音.....45
■ コール (学習者に呼びかける).....46
コール.....46
オールコール.....46
■ モニター (学習者の会話音声を聞く).....47
モニター.....47
スキャンモニター.....47
■ インカム (学習者と対話する).....49
■ モデル.....49
■ コールレスポンス (学習者からの呼びかけに応じる)50
■ 話速制御.....51
■ サイマル.....52
■ 原文・訳文の表示切り替え.....52
■ メッセージ送信.....53

同時進行モード

学習者にダビングや転送した授業教材 (音声・映像教材) を教員の制御で同時に再生したり練習録音したりできます。

1. 操作パネルは「映像・音声教材」を使用します。(クリックして切り替えます。)
2. 「転送済み教材」部分から制御したい教材ファイルをクリックして選択します。
3. [同時進行] ボタンをクリックします。同時進行画面が表示されます。

   同時進行画面では次の操作が可能です。

   教材を再生します。

   交互録音を開始します。(交互録音については「学習者用アプリケーション 操作マニュアル」を参照してください。)

   同時録音を開始します。(同時録音については「学習者用アプリケーション 操作マニュアル」を参照してください。)

   再生や録音を停止します。

   再生を一時停止します。録音の一時停止は出来ません。

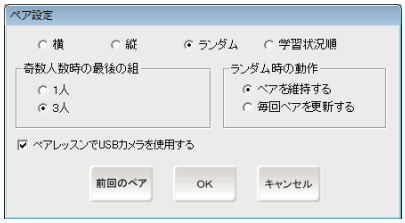
   同時進行画面で教員が行なった操作は、全学習者のソフトウェアレコーダーに反映されます。
4. 同時進行を終了する場合は [閉じる] をクリックしてください。

   メモ 同時進行を終了した直後は、同時進行で使用した教材が「教材ロック」の状態になっています。このとき学習者は他の授業教材を使用することができません。
   教材ロックを解除するには [教材ロック] ボタンをクリックしてボタンの点灯を解除します。

ペアレッスン

学習者同士のペアを設定し、お互いに声を聞きながら練習する方法です。

ペア同士を同じ色で表示



ペア設定の画面

授業画面の [ペアレッスン] をクリックすると、ペアレッスンが始まります。ペアを組んでいる学習者の座席アイコンは同じ枠色で表示されます。
ペアレッスンを終了するときはもう一度 [ペアレッスン] をクリックしてください。(緑色表示のときがペアレッスン設定中、グレー表示のときがペアレッスン解除の状態です。)

ペアの設定を変えるには をクリックします。

ペアのレイアウト	
[横]	横隣りでペアを組みます。
[縦]	縦隣りでペアを組みます。
[ランダム]	ランダムにペアを組みます。
[学習状況順]	画面をリスト表示に切り替え、リスト順にペアを組みます。
奇数人数時の最後の組	
[1 人]	学習者が奇数人数の場合、1 人を残します。
[3 人]	学習者が奇数人数の場合、3 人のグループを 1 つ作ります。
ランダム時の動作	
[ペアを維持する]	この授業で最初に組んだランダムペアが授業終了まで維持されます。
[毎回ペアを更新する]	ペアレッスン毎にペアを組み直します。
ペアレッスンで USB カメラを使用する	
チェックマークを付けておくと、ペアレッスン時に学習者用パソコンの画面に「CameraViewer」が表示され、相手の顔を表示します。これは、各学習者のブースに設置されている USB カメラが撮影した映像です。「CameraViewer」はペアレッスンを終了すると、自動的に終了します。	

前回の設定に戻す場合は [前回のペア] をクリックします。
設定が終わったら [OK] をクリックしてください。

メモ USB カメラについての設定項目は、USB カメラを設置しているシステムで表示されます。

グループレッスン

学習者同士のグループを設定し、お互いに声を聞きながら練習する方法です。

グループ設定の画面

授業画面の [グループレッスン] をクリックすると、グループレッスンが始まります。同じグループの学習者の座席アイコンは同じ枠色で表示されます。
グループレッスンを終了するときはもう一度 [グループレッスン] をクリックしてください。(緑色表示のときが ON、グレー表示のときが OFF の状態です。)

グループの設定は をクリックします。

ペアのレイアウト	
[ブロック]	指定の人数で座席位置順にグループを作ります。
[ランダム]	指定の人数でランダムにグループを作ります。
[学習状況順]	画面をリスト表示に切り替え、リスト順にグループを組みます。
グループの人数はプルダウンリストから選択してください。3 人～ 10 人まで設定が可能です。	
1 人グループ発生時の動作	
[自動でグループに組み込む]	1 人になった学習者を他のグループに自動で組み入れます。
[1 人グループを維持する]	1 人になった学習者をそのまま残します。
[手動でグループ登録する]	1 人になる学習者を手動でグループに組み入れみます。次のページ「グループ登録」の手順で学習者を任意のグループに組み入れてください。
ランダム時の動作	
[グループを維持する]	この授業で最初に組んだランダムグループが授業終了まで維持されます。
[毎回ペアを更新する]	グループレッスン毎にグループを組み直します。
グループレッスンで USB カメラを使用する	
チェックマークを付けておくと、グループレッスン時に学習者用パソコンの画面に「CameraViewer」が表示され、同じグループの学習者の顔を表示します。これは、各学習者のブースに設置されている USB カメラが撮影した映像です。「CameraViewer」はグループレッスンを終了すると、自動的に終了します。	

前回の設定に戻す場合は [前回のグループ] をクリックします。
設定が終わったら [OK] をクリックしてください。

特定の学習者・人数でグループを作りたい場合は、次のページの「グループ登録」の手順に従ってグループを登録してください。

メモ USB カメラについての設定項目は、USB カメラを設置しているシステムで表示されます。

グループ登録

特定の学習者同士でグループを作りたい場合は、グループ登録を行います。

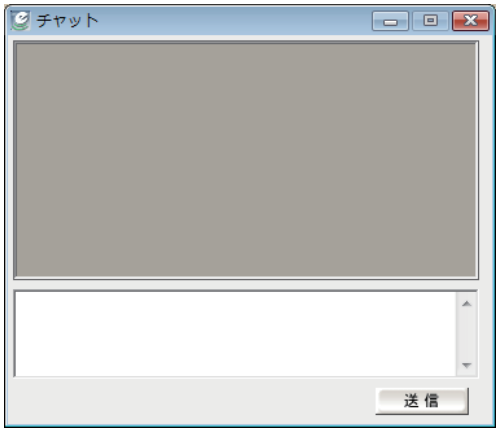
1. [開始] をクリックします。(現在のグループが色分けされます)
2. 設定したい学習者の座席アイコンクリックして選択します。
3. [グループ解除] をクリックして一旦解除します。
4. 設定したい学習者の座席アイコンを順番にクリックして選択します。
5. [グループ化] をクリックします。選択されていた学習者が同じグループに設定されます。
6. 上記手順２～４を行い、グループ化します。

   メモ 設定の途中で操作を中止したい場合は、キーボードの Esc キーを押してください。

7. グループの設定が完了したら [決定] をクリックします。(グループの設定は、授業終了時にすべて解除されます。)

チャット

ペア / グループメンバー及び教員間で文字メッセージを送受信する方法です。



グループレッスンまたはペアレッスン中にチャットの［開始］をクリックすると、「チャット」画面が表示されます。
下段のエリアに文字を入力し、Enter キーを押下するか［送信］ボタンをクリックすると、グループレッスンまたはペアレッスンに参加している学習者にメッセージが送信されます。
上段のエリアには、学習者から受信したメッセージと、教員が送信したメッセージが表示されます。
一度に送ることができるメッセージは 256 文字までです。

メモ チャット中に座席アイコンが選択されると、学習者から受信したメッセージが、選択されたペア / グループメンバーの発言に絞り込まれます。
座席アイコンの選択が解除されると、絞り込みが解除されます。

メモ 送受信したメッセージログは、テキストファイルに記録され、出欠情報フォルダに保存されます。
出欠情報フォルダにアクセスするには、教材フォルダブラウザというアプリケーションを使用すると便利です。
教材フォルダブラウザについての詳細は「15. 教材フォルダブラウザ（教材の登録と管理）」を参照してください。

会話録音 これはオプションの機能です

ペア / グループレッスンの会話を録音してファイルに保存する方法です。

グループレッスンまたはペアレッスン中に［会話録音］をクリックすると、会話の録音が開始されます。
会話録音で生成された録音ファイルは、練習録音ファイルの回収操作により、回収フォルダに保存されます。
練習録音ファイルの回収操作については「5. 音声・映像ファイルの利用」を参照してください。

コール (学習者に呼びかける)

コール

特定の学習者、グループまたはペアに対して呼びかけ、教員の音声を送る機能を「コール」といいます。

1. 呼びかける学習者の座席アイコンをクリックして選択します。
(グループレッスンまたはペアレッスンの最中は、クリックした学習者が属するグループが選択されます。)

2. [コール] をクリックすると、学習者に呼びかけることができます。

   対象となっている学習者には、チャイム音と学習者パソコンの画面上に表示されるコールマークで知らせます。学習者の画面にコールマークが点灯し、教員の音声を送ります。

   メモ チャイム音は「初期設定」で設定されている音声を使用します。チャイム音の設定については管理者用操作マニュアル「7. 初期設定　コール音設定」を参照してください。

3. コールを解除するには、もう一度 [コール] をクリックしてください。

オールコール

学習者全員に呼びかけ、教員の音声を送る機能を「オールコール」といいます。

1. [オールコール] をクリックすると、学習者全員に呼びかけることができます。

   学習者には、チャイム音と学習者パソコンの画面上に表示されるコールマークで知らせます。

   メモ チャイム音は「初期設定」で設定されている音声を使用します。チャイム音の設定については管理者用操作マニュアル「7. 初期設定　コール音設定」を参照してください。

2. オールコールを解除するには、もう一度 [オールコール] をクリックしてください。

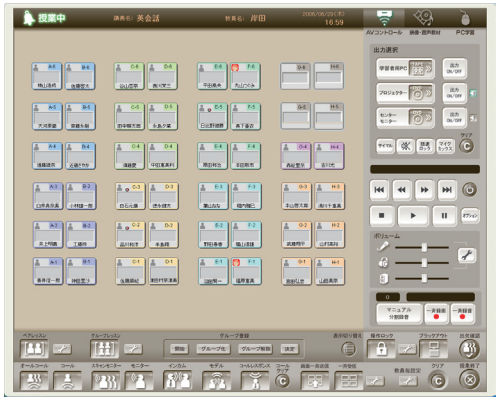
   メモ USB カメラを設置しているシステムでは、コールやオールコール時に教員の顔を学習者用パソコン上に表示します。教員の USB カメラを動作させたくない場合は「教員毎設定」の「教員の会話と教員 PC の USB カメラ連動」の設定を OFF にします。

モニター (学習者の会話音声を聞く)

[モニター] をクリックして解除

モニター

1. 特定の学習者、グループまたはペアの会話音声を聞く機能を「モニター」といいます。
   特定の学習者の座席アイコンをクリックすると、その学習者の発話を聞くことができます。学習者が教材を再生しながら練習している場合は、再生している教材の音声も同時に聞くことができます。
   (グループレッスンまたはペアレッスンの最中は、クリックした学習者が属するグループ全員の会話音声をモニターできます。)
2. 別の学習者の座席アイコンをクリックすると、モニターの対象を変えることができます。
3. モニターを解除するには、対象学習者の座席アイコンをクリックするか、[モニター] をクリックしてください。



[スキャンモニター] をクリック

スキャンモニター

各学習者、ペアまたはグループの会話音声を順番に一定間隔で聞く機能を「スキャンモニター」といいます。

1. [スキャンモニター] をクリックします。
   座席順に、各学習者の会話音声を 5 秒ずつ聞くことができます。学習者が教材を再生しながら練習している場合は、再生している教材の音声も同時に聞くことができます。
   特定の学習者の座席アイコンをクリックしてから [スキャンモニター] をクリックすると、その学習者からスキャンモニターをスタートさせることもできます。
   (グループレッスンまたはペアレッスンの最中は、グループ単位で会話音声を聞きます。)

   メモ スキャンモニターの間隔は「教員毎設定」で変更することができます。
2. スキャンモニターを解除するには、もう一度 [スキャンモニター] をクリックしてください。

メモ モニター対象の学習者と対話したい場合は [インカム] をクリックします。対話を終了してモニターやスキャンモニターに戻る場合は [モニター] や [スキャンモニター] をクリックします。スキャンモニターは続きから再開します。

メモ「教員毎設定」で画面受信の連動を設定している場合は、モニターやスキャンモニターの対象となっている学習者の操作画面が教員用パソコンに転送されます。

メモ 「教員毎設定」で、スキャンモニターの手動送りを設定している場合は、モニター対象学習者は自動的に切り替わりません。
モニター対象学習者を送る場合は をクリックします。
また、 をクリックすると、スキャンモニターの自動送り / 手動送りを切り替えることが出来ます。

メモ USB カメラを設置しているシステムでは、モニター対象の学習者の顔を教員用パソコン上に表示します。この機能を使用しない場合は「教員毎設定」の「モニター及びモデルと USB カメラ連動」の設定を OFF にします。

インカム (学習者と対話する)

特定の学習者、グループまたはペアに属する学習者と対話する機能を「インカム」といいます。

[インカム] をクリック

1. 対話する学習者の座席アイコンをクリックして選択します。(グループレッスンまたはペアレッスンの最中は、クリックした学習者が属するグループが選択されます。)
2. [インカム] をクリックすると、学習者と対話することができます。(対象がグループの場合は、教員と複数の学習者との対話になります。)
3. インカムを解除するには、対象学習者の座席アイコンをクリックするか、もう一度 [インカム] をクリックしてください。

メモ 「教員毎設定」で画面受信の連動を設定している場合は、インカムやモデルの対象となっている学習者の操作画面が教員用パソコンに転送されます。

メモ USB カメラを設置しているシステムでは、インカム時に教員と対象の学習者の顔をお互いに表示させることができます。「教員毎設定」の「教員の会話と教員 PC の USB カメラ連動」の設定を OFF にした場合は教員側のカメラの画像は送信されません。

モデル

特定の学習者、グループまたはペアの会話音声を他の学習者全員に聞かせる機能を「モデル」といいます。

[モデル] をクリック

1. モデルとなる学習者の座席アイコンをクリックして選択します。(グループレッスンまたはペアレッスンの最中は、クリックした学習者が属するグループが選択されます。)
2. [モデル] をクリックすると、その学習者の会話音声と教員の声を、他の学習者全員に聞かせることができます。(対象がグループの場合は、グループの会話が他の学習者に公開されます。)

メモ 「教員毎設定」でモデルの再生教材を停止しない設定にしている場合は、学習者が再生している教材の音声も同時に他の学習者に聞かせることができます。

3. モデルを解除するには、対象学習者の座席アイコンをクリックするか、もう一度 [モデル] をクリックしてください。

メモ 「教員毎設定」で画面受信の連動を設定している場合は、インカムやモデルの対象となっている学習者の操作画面が教員用パソコンに転送されます。

メモ USB カメラを設置しているシステムでは、モデル学習者の顔を教員用パソコンや他の学習者パソコン上に表示します。この機能を使用しない場合は「教員毎設定」の「モニター及びモデルと USB カメラ連動」の設定を OFF にします。

コールレスポンス (学習者からの呼びかけに応じる)

学習者からコール (呼びかけ) があった場合に、それに応じて学習者と対話する機能です。

学習者からのコール (呼びかけ) があると、チャイム音で知らせると同時にその学習者の座席アイコン上でコールマーク が 5 回点滅します。教員は次のように対応してください。

●その学習者と対話する場合

[コールレスポンス] をクリックしてください。学習者と対話ができます。複数の学習者からコールがある場合は [コールレスポンス] をクリックするごとにコールされた順番で対話を行います。

●対話せずにコールを解除する場合

[コールクリア] をクリックしてください。すべてのコールを解除します。

メモ ペアレッスンおよびグループレッスンのときには、ペア・グループに属する学習者全員との対話になります。

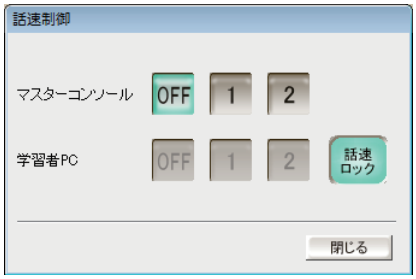
メモ チャイム音は「初期設定」で設定されている音声を使用します。チャイム音の設定については管理者用操作マニュアル「7. 初期設定　コール音設定」を参照してください。

メモ「教員毎設定」で画面受信の連動を設定している場合は、コールレスポンスの対象となっている学習者の操作画面が教員用パソコンに転送されます。

メモ USB カメラを設置しているシステムでは、コールレスポンス時に教員と対象の学習者の顔をお互いに表示させることができます。「教員毎設定」の「教員の会話と教員 PC の USB カメラ連動」の設定を OFF にした場合は教員側のカメラの画像は送信されません。

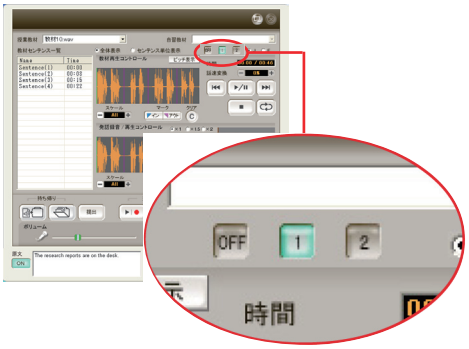
話速制御

学習者の教材再生速度コントロールを教員側で制御できます。



話速制御画面

学習者画面



話速ロック

話速ロック機能を利用すると、学習者用ソフトウェアレコーダーの話速変換機能をロックし、使用できないようにします。ボタンが緑色のときが話速ロックの状態です。
話速ロックを解除するにはもう一度 [話速ロック] ボタンをクリックします。

話速制御 (オーディオユニットを使用している場合)

オーディオユニットを設置したシステムでは、オーディオユニットのゆっくり再生機能を教員が制御できます。
オーディオユニットのゆっくり再生機能は、学習者のヘッドホンから聞こえるすべての音声 (送出中の音声教材や映像教材の音声、学習者が再生している教材の音声など) に有効です。

1. [話速制御] ボタンをクリックします。
2. [話速ロック] が有効な場合 (緑色に点灯中のとき) は、学習者はオーディオユニットによるゆっくり再生機能、およびソフトウェアレコーダーの「話速変換」機能を使用することができません。
3. 教員が全学習者のオーディオユニットによるゆっくり再生機能を制御する場合は、話速ロックボタンをクリックして解除し、話速制御画面の学習者 PC 部分を操作します。
   [OFF] ゆっくり再生機能を OFF にします。
   [1]　ややゆっくりになります。
   [2]　さらにゆっくりになります。
4. 設定後は [閉じる] をクリックして話速制御画面を閉じます。

サイマル

サイマル機能の ON・OFF を切り替えます。

サイマル機能とは、学習者用パソコンで学習者自身の発音音声がヘッドホンから聞こえないようにする機能です。
この機能を有効にするには [サイマル] をクリックしてください。(ボタンが緑色表示のときが有効です。)
解除する場合は、もう一度 [サイマル] をクリックしてください。

メモ　マイクミックスが ON の時は、サイマル機能は使用できません。サイマルが ON の時にマイクミックスを ON にすると、サイマルは強制的に OFF になり、ボタンはグレーアウトになります。

原文・訳文の表示切り替え

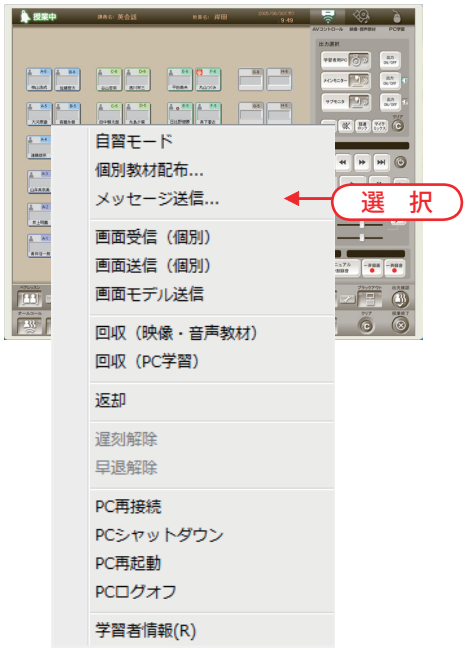
学習者用ソフトウェアレコーダーの原文・訳文欄の文字表示を切り替える機能です。

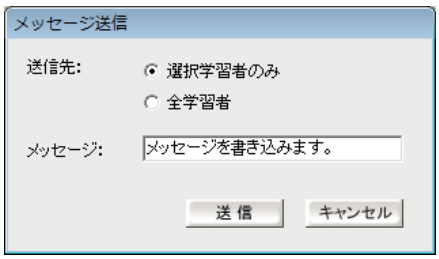
音声教材に原文・訳文の情報が含まれている場合は、ソフトウェアレコーダーの画面上に表示させることができます。
[対訳を表示する] をクリックしてチェックマークを付けると、学生がソフトウェアレコーダーでこのファイルを再生したときに画面に原文・訳文が表示されます。チェックマークを外すと、原文・訳文は表示されません。

メモ　原文・訳文は「教材作成アプリケーション」を使用して入力することができます。教材作成アプリケーションの操作については教材作成アプリケーションの操作マニュアルを参照してください。

メッセージ送信

特定の学習者または学習者全員に、教員からテキストメッセージを送信する機能です。





「メッセージ送信」画面

1. メッセージを送信したい学習者の座席アイコンを右クリックします。複数の学習者に送信したい場合は、キーボードの Ctrl キーを押しながら学習者を選択して、右クリックしてください。(座席レイアウト上をマウスでドラッグ＆ドロップすると、その範囲に含まれる学習者をすべて選択することができます。)
学習者全員に送信したい場合は、特に学習者を選択する必要はありません。任意の座席アイコンを右クリックしてください。
2. 右クリックメニューから「メッセージ送信」を選択します。
3. 「メッセージ送信」画面が表示されます。
「送信先」で、メッセージを送信する宛先を選びます。
[選択学習者のみ] または [全学習者] のどちらかを選択してください。
4. 「メッセージ」部分に、送信するメッセージを入力します。一度に送ることができるメッセージは全角 130 文字、半角 260 文字までです。
5. [送信] ボタンをクリックすると、学習者にメッセージを送信します。(中止する場合は [キャンセル] をクリックしてください。)

送信したメッセージは、学習者用 ナビゲーターのメッセージ表示エリアに表示されます。(学習者からの返信はできません。)

学習者用 ナビゲーター

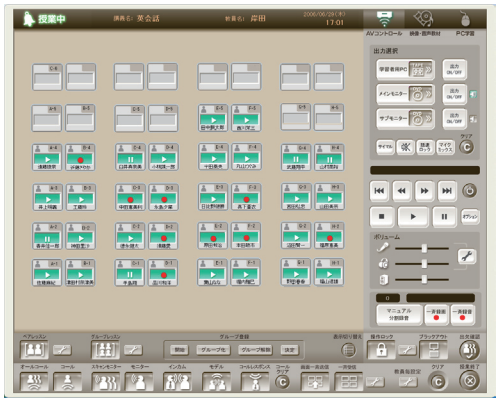
7. 学習状況の確認と評価

授業中は、さまざまな方法で学習者の状況を確認することができます。

■ 練習状況のアイコン表示 55
■ 練習状況の一覧表示 55
■ USB カメラ画像を一覧表示 56
■ 評価やコメントを記録 56

練習状況のアイコン表示

座席アイコン上に学習者用ソフトウェアレコーダーの再生操作状況をマークで表示します。



学習者が教材ファイルの再生や練習録音を実施すると、その状況を座席アイコン上にマークで表示します。表示されるマークは次のものです。

教材を再生中です。

教材を一時停止中です。

練習録音中です。

操作をしていない学習者 (教材を停止している状態) の座席アイコン上には何も表示されません。

状況表示中も、モニターやインカムなどの操作は通常通り行うことができます。(このときの対象学習者の座席アイコンには、状況表示ではなくモニターやインカムなどのマークが優先して表示されます。)

練習状況の一覧表示

座席レイアウト表示エリアを切り替えて、学習者の練習状況をリスト表示することができます。

1. [表示切替] をクリックします。
座席レイアウト表示エリアが一覧表示に切り替わります。このリストには、座席番号順に学習者がリスト表示されています。練習状況のマーク表示だけでなく、現在使用中の教材ファイル名やセンテンス名、再生回数・練習録音回数も確認できます。

メモ 再生回数・録音回数の分数表示は、複数のファイルを使用して練習した場合の回数を表示します。例えば再生回数が「2/5」の場合、「再生の合計回数が 5 回、現在選択されている教材での再生回数が 2 回」となります。

メモ 学習者が繰り返し再生機能で再生している場合、繰り返した回数はカウントされません。

項目名で並べ替え

2. リストの項目名部分をクリックすると、その項目で昇順・降順に並べ替えることができます。

メモ ペアレッスンやグループレッスンの設定で [学習状況順] を選択すると、一覧表示に切り替わります。このときリストの表示順にペアやグループを構成することができます。また、一覧表示中も座席レイアウト表示時と同じようにコールやインカムなどの機能が使用できます。

3. 一覧表示から座席レイアウト表示に戻す場合は、もう一度 [表示切替] をクリックします。

USB カメラ画像を一覧表示 これはオプションの機能です

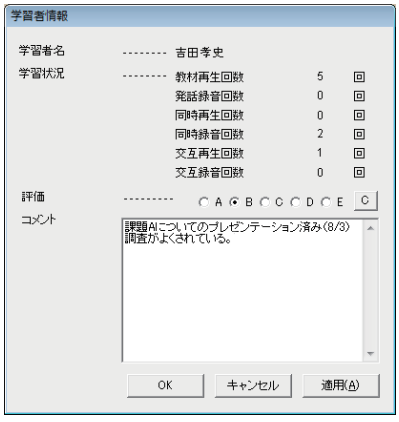
USB カメラを設置したシステムでは、全学習者の顔を座席アイコン上に表示させることができます。

1. 一斉受信ボタン右側にある ボタンをクリックします。
2. 一斉受信設定画面で「USB カメラ画像」を選択し、[OK] をクリックします。
3. [一斉受信] をクリックします。
   座席アイコン上に学習者の USB カメラで撮影した画像が表示されます。カメラ画像表示中も、モニターやインカムなどの操作は通常通り行うことができます。

   メモ このとき、学習者の操作画面は教員用パソコンの画面上に分割して表示されます。分割表示については 64 ページ「9. 画面送受信」を参照してください。
4. カメラ画像表示を終了するには、もう一度 [画面一斉受信] をクリックします。

評価やコメントを記録

学習者ごとの評価やコメントを記録しておくことができます。



1. 評価やコメントを記録したい学習者の座席アイコン上または一覧表示時ではリスト上で右クリックします。
2. 右クリックメニューから「学習者情報」を選択します。
3. 学習者情報画面には、この授業の中での練習記録などが表示されています。評価・コメントは画面下部に記録できます。
   [評価]　A ～ E の 5 段階から選びます。選択をリセットする場合は、「C」クリアボタンを押してください。
   [コメント] 全角・半角とも 256 文字まで入力できます。

   [O K] をクリックして学習者情報画面を閉じます。
4. 評価・コメントの情報は、出欠データ内に記録されます。出欠データは授業画面の [出欠確認] ボタンから、CSV 形式でデータ書き出しをするか、授業終了後にメインメニューで「出欠情報収集」を開いて CSV 形式のデータを取得することができます。(22 ページ「3. 授業の開始　授業ごとの出欠情報を確認」を参照してください。)
   CSV 形式のファイルは Excel などを使用して閲覧することができます。

8. PC 学習ファイルの利用

システムの運用を開始する前に、使用者 (教員・学習者) の情報や履修クラスの登録作業、その他の初期設定を行います。

■ 教材の準備 58
使用できるファイルの種類 58
データベースに登録 58
■ PC 学習ファイルの一斉配布 58
■ USB メモリ等から PC 学習ファイルを配布 59
■ 特定の学習者に PC 学習ファイルを配布 60
■ PC 学習ファイルの回収 61
PC 学習ファイルを一斉回収 61
特定の学習者から PC 学習ファイルを回収 62
■ 学習者からのファイル提出 62
■ PC 学習ファイルの返却 63

教材の準備

使用できるファイルの種類

CALL システムでは、音声ファイル・映像ファイルだけでなく汎用アプリケーションで作成したファイル (PC 学習ファイル) を学習者に配布することができます。これらのファイルを教材として利用するためには、学習者用パソコンでファイルを閲覧できる環境である必要があります。

教材として利用できる PC 教材ファイルの例 (この他にも、様々な形式のファイルを配布できます

ファイルの例 (拡張子)	閲覧に必要なアプリケーション
Word 文書ファイル (.doc)	Microsoft Word
Text ファイル (.txt)	メモ帳、ワードパッドなど
Excel シート (.xls)	Microsoft Excel
HTML ファイル (.html.htm)	Internet Explorer など

データベースに登録

上記のようなファイルを CALL システムサーバー内のデータベースに登録しておくと、学習者に配布して教材として利用することができます。
ファイルをデータベースに登録するには、教材フォルダブラウザを使用すると便利です。教材フォルダブラウザについては 88 ページ「15. 教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理)」を参照してください。

PC 学習ファイルの一斉配布

サーバーのデータベースに登録 (保存) されたファイルを全学習者に配布することができます。

1. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)

2. 「データベース」の部分にはデータベースのフォルダが表示されています。各フォルダの [＋] マークをクリックして登録されているファイルを表示します。配布したいファイルをクリックしてチェックマークを付けてください。

   メモ 授業中でもデータベースフォルダに教材を追加・削除することが出来ます。
   データベースフォルダに教材を追加又は削除した後 をクリックすると、データベースを最新の状態に更新することが出来ます。
   データベースフォルダにアクセスするには、「教材フォルダブラウザ」を使用します。教材フォルダブラウザについては、88 ページ「15. 教材フォルダブラウザ（教材の登録と管理）」を参照してください。

3. 配布と同時に学習者用パソコンでこのファイルを開くようにする場合は [アプリケーション自動起動] をクリックしてチェックマークを付けてください。

4. [配布] をクリックすると、すべての学習者にファイルが配布されます。配布済みのファイルは、右側のリストに追加されます。

学習者用 ナビゲーター

5. 学習者はナビゲーターの [PC 教材フォルダ] をクリックすると、配布されているファイルを利用することができます。

6. 配布済みの状態を解除するには、リストから教材をクリックして選択し、[削除] をクリックしてください。配布済みのリストから削除されます。(配布の解除は次回の授業から有効です。[PC 教材] で一度配布された教材は、授業終了時まで学習者が閲覧することができます。)

USB メモリ等から PC 学習ファイルを配布

USB メモリなどのリムーバブルメディアで PC 学習ファイルを持参した場合は、それらのメディアから直接学習者に配布することができます。

1. 持参したメディア (USB メモリや CD-R など) をマスターコンソールにセットします。

2. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)

3. [教材選択と転送] ボタンをクリックします。

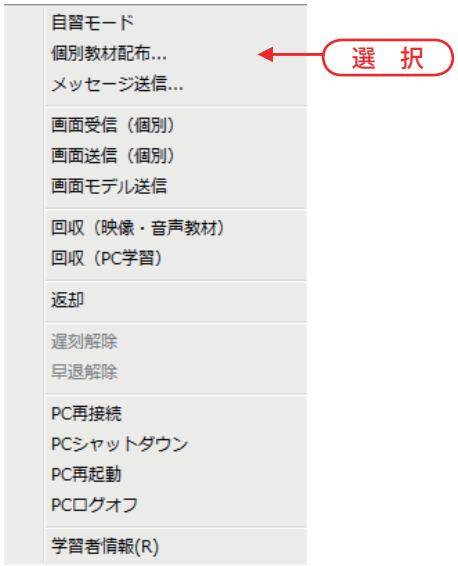
4. ファイルを選択する画面が表示されますので、配布したいファイルが保存されている場所 (USB メモリの場合はリムーバブルディスク、CD-R の場合は CD ドライブなど) を指定し、対象のファイルを選択します。

5. [開く] をクリックすると、選択したファイルが学習者に配布されます。学習者用パソコンでこのファイルを開くようにする場合は [アプリケーション自動起動] をクリックしてチェックマークを付けてください。

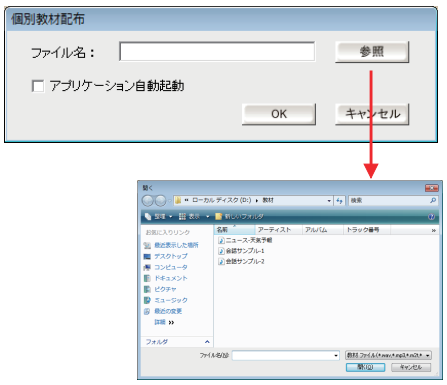
配布されたファイルは、一斉配布された PC 学習ファイルと同じように閲覧できます。

特定の学習者に PC 学習ファイルを配布

特定の学習者 (複数も可能) に PC 学習ファイルを配布します。



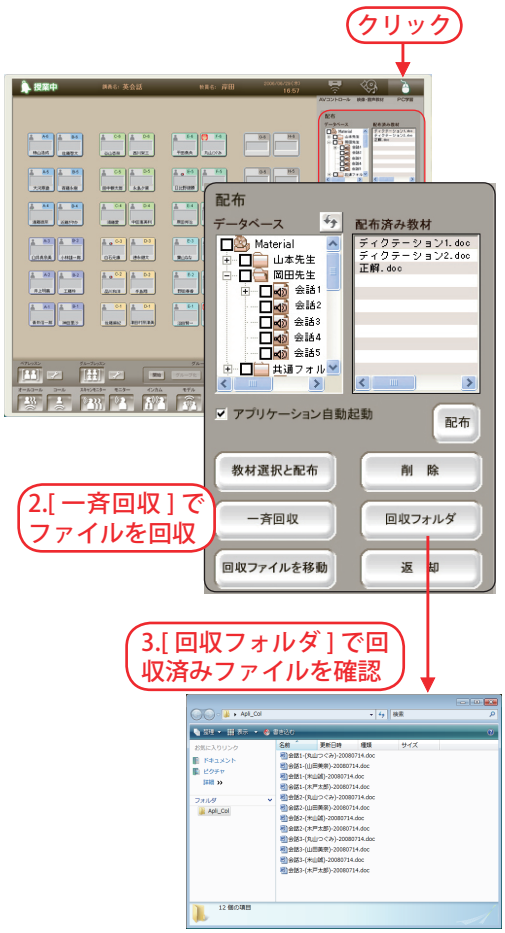
「個別教材配布」画面



1. ファイルを配布したい学習者の座席アイコンを右クリックします。複数の学習者に配布したい場合は、キーボードの Ctrl キーを押しながら学習者を選択して、右クリックしてください。(座席レイアウト上をマウスでドラッグすると、その範囲に含まれる学習者をすべて選択することができます。)
2. 右クリックメニューから「個別教材配布」を選択します。
3. 「個別教材配布」画面が表示されます。
   [参照] ボタンをクリックして配布するファイルを選択してください。配布と同時に学習者用パソコンでこのファイルを開くようにする場合は [アプリケーション自動起動] をクリックしてチェックマークを付けます。
4. [OK] をクリックすると、学習者に教材が配布されます。
   ファイルを配布された学習者は、ナビゲーターの [PC 教材フォルダ] をクリックするとファイルの一覧を見ることができます。

PC 学習ファイルの回収

PC 学習ファイルを配布後に、学習者が編集 (回答) ・上書きしたファイルを教員の操作で回収できます。



PC 学習ファイルを一斉回収

1. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)

2. [一斉回収] をクリックすると、回収を始めます。
回収中は各学習者の座席アイコンに回収状況を表示します。

ファイルを回収中です。学習者の画面にはファイルの上書き保存を促すメッセージが表示されています。学習者が上書き保存後、[OK] ボタンをクリックするまで、座席アイコンには回収中アイコンが表示されます。(学習者が、上書き保存する前にメッセージ画面の [OK] をクリックしてしまうと、回収に失敗します。この場合は、1 度回収操作を終了してから、一斉回収操作をやり直してください。)

回収が終了しました。

回収に失敗しました。

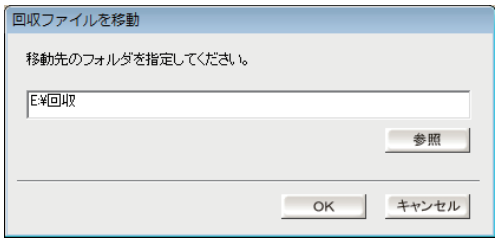
回収するファイルがありません。
(上書き保存がされていません。)

メモ 教員毎設定で「回収フォルダ指定」がONになっている場合、[一斉回収]ボタンをクリックすると「教材回収」ダイアログが表示されるので、回収フォルダを指定します。

3. 回収終了後に [回収フォルダ] をクリックすると、回収したファイルの保存フォルダを表示します。(このフォルダには、学習者が自主的に提出したファイルも含まれています。)

回収ファイルには、PC 学習ファイルのファイル名に学習者名と授業の日付を加えた新しいファイル名が自動的に付けられています。

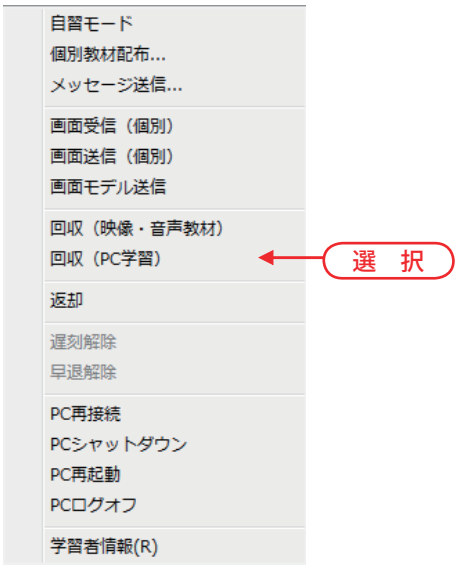
(例)「問題 1-(山田美奈)-20050801.doc」



メモ 回収後に [回収ファイルを移動] をクリックすると、回収フォルダ内にある PC 学習ファイルを、指定した 1 つのフォルダにまとめます。連続して回収を行なう場合は、次の回収を始める前に [回収ファイルを移動] をクリックして、今回収したファイルを 1 つのフォルダにまとめて分けておくと便利です。

メモ 教員毎設定で「回収フォルダ指定」が ON になっている場合、[回収ファイルを移動] ボタンは使用できません。

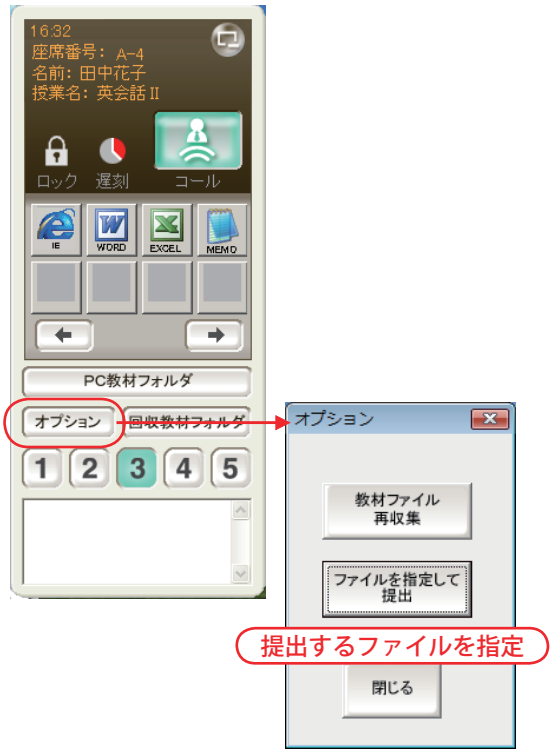
メモ [一斉回収]は、配布したファイルを学習者から教員に戻す操作ではありません。学習者が閲覧しているファイルを回収フォルダにコピーする操作です。したがって、回収した後でも学習者はファイルを閲覧することができます。



特定の学習者から PC 学習ファイルを回収

1. ファイルを回収したい学習者の座席アイコンを右クリックします。複数の学習者からファイルを回収したい場合は、キーボードの Ctrl キーを押しながら学習者を選択して、右クリックしてください。(座席レイアウト上をマウスでドラッグすると、その範囲に含まれる学習者をすべて選択することができます。)
2. 右クリックメニューから「回収 (PC 学習)」を選択すると、対象の学習者が編集・上書き保存した配布済みファイルを回収します。回収中は学習者の座席アイコンに回収状況を表示します。回収状況の表示については、前ページの一斉回収時と同じです。
3. 回収した録音ファイルは、一斉回収の場合と同様に「PC 学習」の [回収フォルダ] をクリックすると確認できます。

学習者からのファイル提出

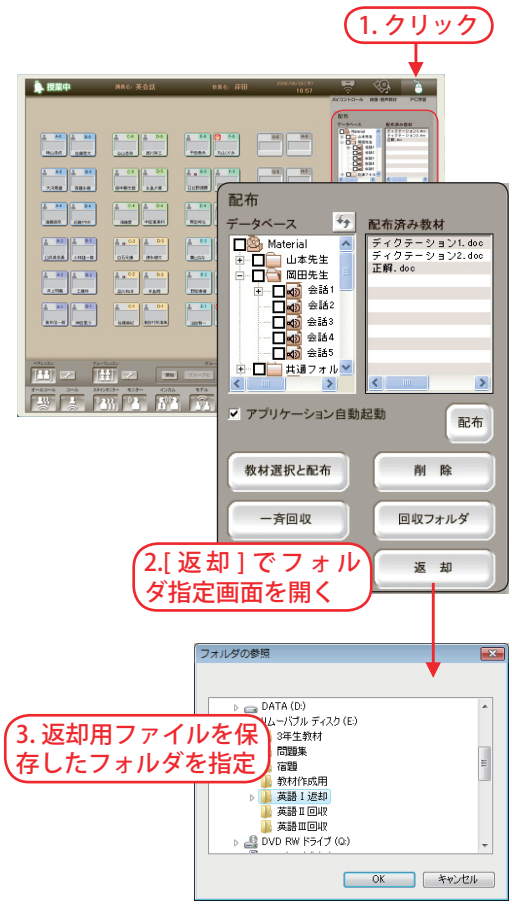


学習者のナビゲーターの機能を利用すると、学習者が作成した Word や Excel のファイルや自宅で録音して持参した音声ファイルなどの課題を自主的に教員に提出できます。学習者は USB メモリーなどを利用してファイルを持参し、ナビゲーターの [オプション] ボタンから [提出] をクリックしてファイルを指定し、提出します。

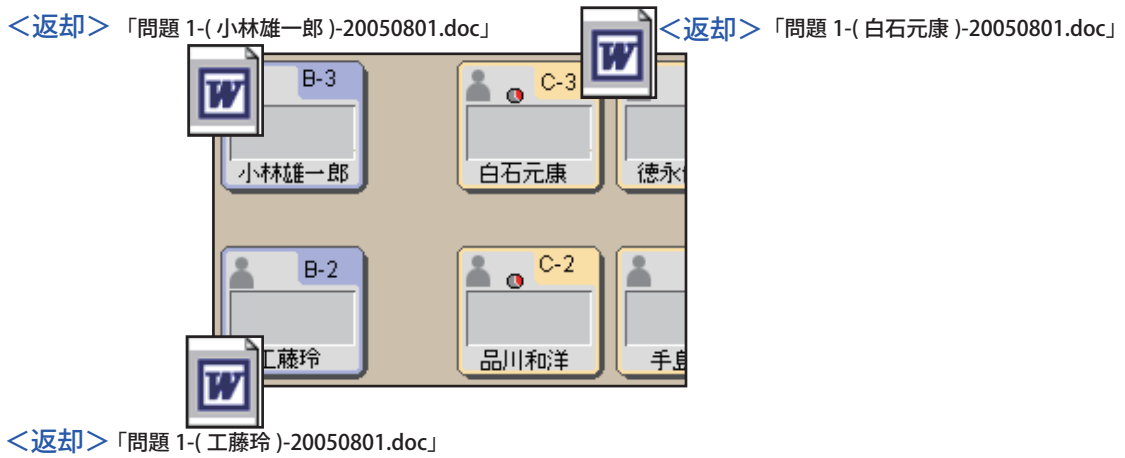
提出されたファイルは一斉回収の場合と同様に、マスターコンソールの「PC 学習」パネルから [回収フォルダ] をクリックすると確認できます。

PC 学習ファイルの返却

学習者から回収した PC 学習ファイルを一斉に返却することができます。



1. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)
2. [返却] をクリックすると、フォルダ選択の画面が表示されますので、返却するファイルをまとめたフォルダを指定します。
3. [OK] をクリックします。
   フォルダ内の各ファイル名に付いている学習者名と、現在ログインしている学習者名が一致するファイルは返却が成功します。一致する学習者がいない場合は、返却を行いません。
4. 返却されたファイルは、学習者用ナビゲーターの [PC 学習教材] ボタンから「Apli_Ret」フォルダを開くと、閲覧できます。



「問題 1-(山本葉子)-20050801.doc」
※ファイル名と学習者が一致しない場合は返却できません

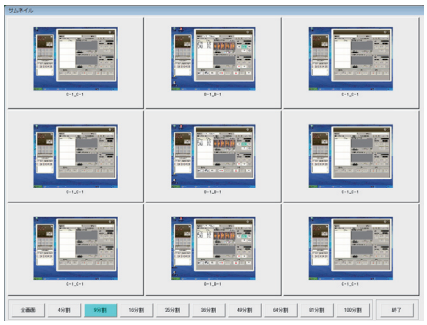
9. 画面送受信

各学習者のパソコンに表示されている画面や教員用パソコンに表示されている画面を教員の操作で送受信する機能です。

■ 学習者画面の一覧表示 65
■ 教員画面の一斉送信 65
■ 学習者画面の個別受信 67
■ 教員画面の個別送信 68
■ モデル画面の一斉送信 68

学習者画面の一覧表示

授業画面の座席アイコン部分に、それぞれの学習者用パソコンの現在の画面状態を表示する機能です。



教員用パソコンでの分割表示

1. 授業画面の [一斉受信] をクリックします。
2. 各学習者パソコンの現在の画面が、それぞれの座席アイコン上に表示されます。この表示は一定間隔で更新されます。

   メモ 表示の更新間隔は「教員毎設定」で変更することができます。

3. 一斉受信中は、各学習者の操作画面を教員用パソコンに分割して表示しています。分割表示は表示画面数を変えることができます。

   表示を解除するにはもう一度 [画面受信] をクリックしてください。

メモ USB カメラを設置したシステムでは、座席アイコン上に表示する画像を、学習者の操作画面または USB カメラ画像 (学習者の顔) に切り替えることができます。USB カメラ画像の表示については 56 ページ「7. 学習状況の確認と評価 USB カメラ画像を一覧表示」を参照してください。

メモ 学習者が映像教材を再生しているときに画面受信した場合、映像教材の種類によっては受信画面上に再生映像部分が表示されない場合があります。

教員画面の一斉送信

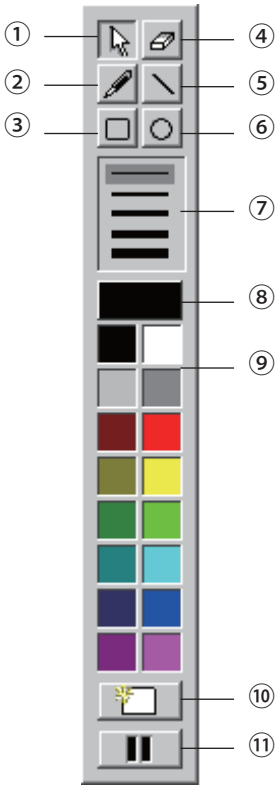
教員用パソコンに表示されている画面を学習者全員に送信します。

1. 授業画面の [画面一斉送信] をクリックします。
2. 学習者パソコンでは、画面受信ウィンドウが表示され、そこに教員用パソコンの画面が表示されます。
3. 教員用パソコンには画面上に自由に書き込みができる描画ツールが表示されます。書き込んだ内容は即座に学習者パソコン上の画面にも反映されます。(描画ツールの操作については次のページの解説を参照してください。)
4. 一斉送信を解除する場合はもう一度 [画面一斉送信] をクリックしてください。

   メモ 送信する画面のサイズは「教員毎設定」で変更することができます。

教員用パソコン

メモ 教員用パソコンのデスクトップ上に言語バーが表示されていると、画面の送受信時に言語バーが点滅する場合があります。このような場合は、言語バーを画面下のツールバーの位置まで直接ドラッグするか、言語バーを右クリックして「最小化」を選択し、ツールバーの中に格納してください。

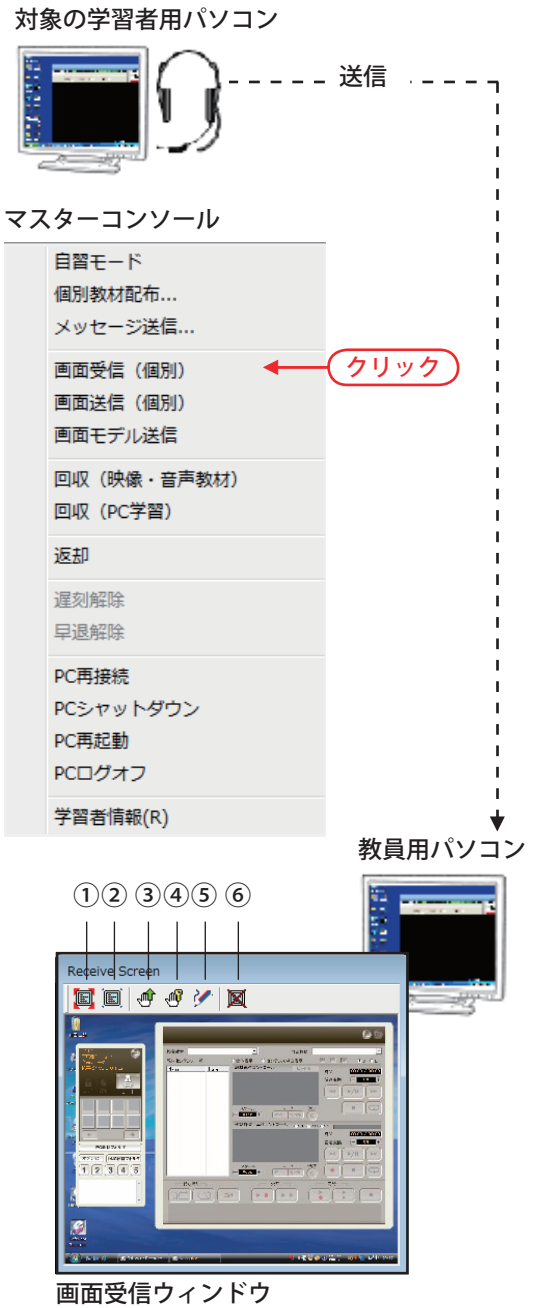


描画ツールは、教員用パソコンの画面上に表示されます。このツールを使うと、画面上に自由に線や図形を書き込むことができます。書き込まれた図は、学習者用パソコンの画面にも表示されます。

①ニュートラル	通常のパソコン操作時と同じようにWindows の操作を行ないます。書き込みは行いません。
②ペン	自由に線を描きます。
③矩形	矩形を描きます。
④消しごむ	線を消します。
⑤直線	直線を描きます。
⑥楕円	楕円を描きます。正円を描くときは、Shift キーを押しながらドラッグしてください。
⑦線幅	線幅を選択します。消しゴムのときは消しゴムの大きさになります。
⑧現在の色	現在の色が表示されています。
⑨カラーパレット	描画する色を選びます。
⑩オールクリア	すべての書き込みを消します。
⑪一時停止	画面送信を一時停止します。

学習者画面の個別受信

特定の学習者パソコンに表示されている画面を受信して教員用パソコンに表示します。学習者画面の個別受信を行うと、対象となっている学習者の画面を遠隔操作したり、描画ツールを使って学習者の画面上に書き込みをすることができます。



画面受信ウィンドウ

1. 画面を受信したい学習者の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面受信 (個別)] を選択します。
2. 教員用パソコンに画面受信ウィンドウが表示され、そこに学習者の画面が表示されます。
3. 教員用パソコンの画面受信ウィンドウでは、次の操作が可能です。

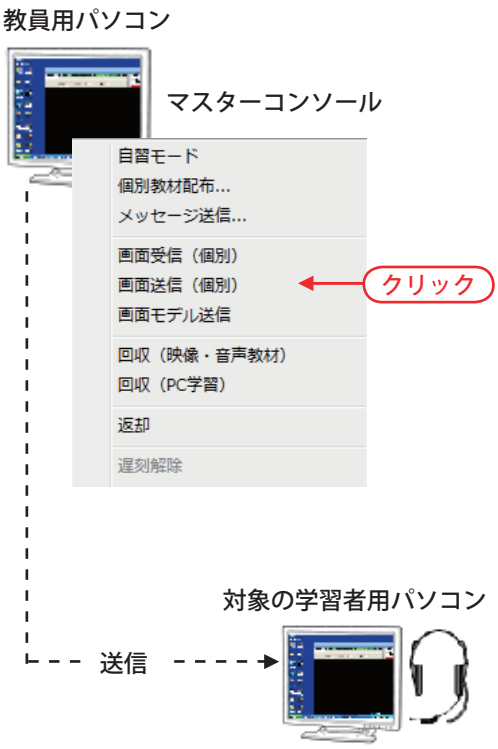
①全画面表示	画面受信ウィンドウを最大化して表示します。
②デフォルトサイズに戻す	画面受信ウィンドウをデフォルトサイズに戻します。
③リモートコントロール	対象の学習者パソコンを遠隔操作します。受信画面上を操作すると学習者用パソコンに反映されます。
④キーボードマウスロック	対象となっている学習者用パソコンのマウスとキーボード操作を一時的に無効にします。元に戻すときは、もう一度クリックしてください。
⑤マーカー表示	描画ツールを表示します。ツールの操作については、前のページを参照してください。
⑥画面受信停止	画面の受信を解除して、画面受信ウィンドウを閉じます。

4. 別の学習者の画面を受信する場合は、授業画面で別の学習者の座席アイコンを右クリックして [画面受信 (個別)] を選択します。前に指定した学習者の画面受信を解除し、別の学習者の画面を受信します。
5. 受信を解除する場合は、その学習者の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面受信 (個別)] をクリックしてチェックマークを外します。

注意! 学習者が映像教材を再生しているときに画面受信した場合、映像教材の種類によっては受信画面上に再生映像部分が表示されない場合があります。

教員画面の個別送信

教員用パソコンに表示されている画面を、特定の学習者に送信します。



1. 画面を送信したい学習者の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面送信 (個別)] を選択します。
2. 学習者パソコンでは、画面受信ウィンドウが表示され、そこに教員用パソコンの画面が表示されます。
3. 教員用パソコンには画面上に自由に書き込みができる描画ツールが表示されます。ツールの使用方法については、この章の「画面送受信　教員画面の一斉送信」の手順を参照してください。
4. 別の学習者に画面を送信する場合は、授業画面で別の学習者の座席アイコンを右クリックして [画面送信 (個別)] を選択します。前に指定した学習者への画面送信は継続したまま、さらに別の学習者にも画面を送信します。
5. 送信を解除する場合は、対象となる学習者の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面送信 (個別)] をクリックしてチェックマークを外します。

モデル画面の一斉送信

特定の学習者の画面を教員と他の学習者全員に送信します。学習者画面のモデル送信を行うと、モデルとなっている学習者の画面を遠隔操作したり、描画ツールを使って学習者の画面上に書き込みをすることができます。

1. 画面を取得する学習者 (モデル) の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面モデル送信] を選択します。
2. モデル学習者の画面が他の学習者に送信されます。
   教員用パソコンおよび他の学習者用パソコンでは、画面受信ウィンドウが表示され、そこにモデル学習者の画面が表示されます。
3. モデル画面の送信を解除する場合は、モデル学習者の座席アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの [画面モデル送信] をクリックしてチェックマークを外します。

注意! モデルの学習者が映像教材を再生しているときに画面モデル送信した場合、映像教材の種類によっては受信画面上に再生映像部分が表示されない場合があります。

10.学習者用パソコンの制御

■ 学習者パソコンの操作ロックとブラックアウト 70
操作ロック 70
ブラックアウト 70
■ アプリケーションの使用を制御 71
■ インターネットアクセスを制御 71
学習者用パソコンで指定の URL を開く 71
インターネットアクセスを禁止する 71
■ 教材ロック (使用教材を限定) 72
■ 自習モードの設定 72

学習者パソコンの操作ロックとブラックアウト

学習者パソコンのマウス操作やキーボード操作を無効にする機能を「操作ロック」といいます。操作ロックに加えて学習者パソコンのディスプレイを非表示 (黒い画面) にする機能を「ブラックアウト」といいます。

操作ロック制限の設定画面

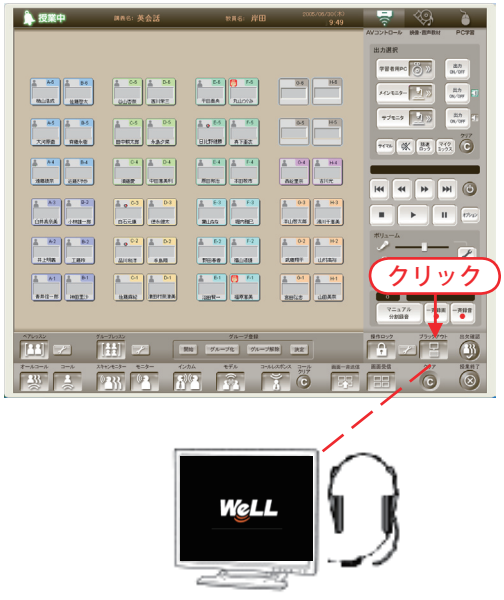
操作ロック

授業画面の [操作ロック] をクリックすると、学習者はマウスやキーボードの操作ができなくなります。
操作ロックを解除する場合はもう一度 [操作ロック] をクリックしてください。

操作ロックの制限を変更する場合は をクリックします。設定画面が表示されますので、操作ロックする項目を選択します。

全操作	すべての操作をロックします。
ソフトウェアレコーダーのみ	ソフトウェアレコーダーの操作をロックします。
ナビゲーターのランチャーのみ	ナビゲーターの操作をロックします。

メモ 操作ロック中の学習者の座席アイコンには、操作ロックマーク が表示されます。自習モードの学習者は操作ロックの対象外です。



学習者用パソコン

ブラックアウト

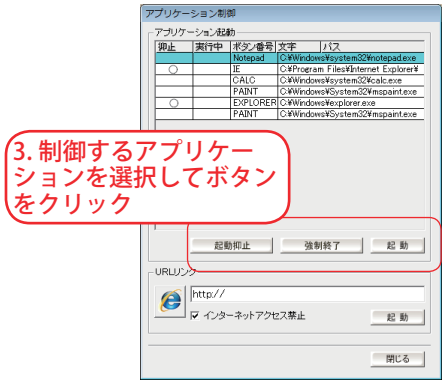
授業画面の [ブラックアウト] をクリックすると、学習者のディスプレイは非表示 (黒画面) になります。ブラックアウトの間は、学習者はマウスやキーボードの操作ができません。
ブラックアウトを解除する場合は、もう一度 [ブラックアウト] をクリックしてください。

メモ ブラックアウト中の学習者の座席アイコンには、ブラックアウトマーク が表示されます。自習モードの学習者はブラックアウトの対象外です。

メモ 学習者用パソコンで学習者がマウスを操作中に、教員が操作ロックやブラックアウトを設定 / 解除すると、解除時に学習者のマウスがクリックを保持した状態になることがありますが、Windows の制限によるものであり、故障ではありません。この場合は、学習者がマウスを左クリックするとクリックの保持を解除することができます。

アプリケーションの使用を制御

学習者用アプリケーションのナビゲーターに登録されているアプリケーションの動作を制御します。



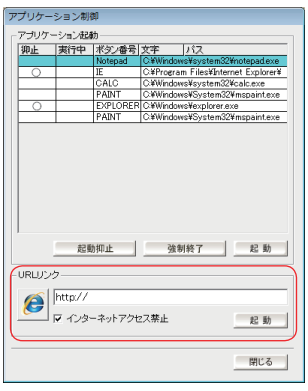
アプリケーション制御の画面

1. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)
2. 「アプリケーション制御」部分の [表示] をクリックします。
「アプリケーション制御」画面が表示されます。この画面の一覧には、学習者用パソコンのナビゲーターに登録されているアプリケーションの詳細 (ボタン番号、表示テキスト、パス) が表示されています。
3. 制御したいアプリケーションを一覧から選択し、[起動抑止][強制終了][起動] のいずれかのボタンをクリックすると、すべての学習者のアプリケーションを遠隔制御します。

起動抑止	選択したアプリケーションのショートカットアイコンを学習者の画面 (ナビゲーター) のリストから隠します。学習者はナビゲーターのアイコンからこのアプリケーションを起動させることができなくなります。
強制終了	選択したアプリケーションを起動している学習者がいる場合は強制的にアプリケーションを終了させます。
起動	選択したアプリケーションを学習者用パソコンで起動させます。

4. アプリケーション制御の画面を終了する場合は [閉じる] ボタンをクリックしてください。(画面を閉じても制御状態は維持されます。制御を解除する場合は再度この画面で操作を行なってください。)

インターネットアクセスを制御



アプリケーション制御の画面

学習者用パソコンで指定の URL を開く

「アプリケーション制御」画面の「URL リンク」部分に URL を入力して [起動] をクリックします。学習者用パソコンで Internet Explorer が起動し、URL が表示されます。
URL を指定するにあたって、URL を検索したい場合は をクリックしてインターネットに接続してください。

インターネットアクセスを禁止する

学習者用パソコンからのインターネットアクセスを一時的に禁止する場合は、「アプリケーション制御」画面の「インターネットアクセス禁止」にチェックマークを付けます。

教材ロック (使用教材を限定)

転送済み教材 (授業教材) のうち、授業中の学習者が特定の教材しか選択できないようにする機能です。

1. 「転送済み教材」のリストから使用する教材１つをクリックして選択します。
2. [教材ロック] をクリックします。
   学習者はここで選択された教材だけを利用できます。
3. 教材ロックを解除するには、もう一度 [教材ロック] をクリックしてください。学習者はすべての転送済み教材 (授業教材) を利用することができます。

メモ　自習モードに設定されている学習者は [教材ロック] が設定されている場合でも、すべての転送済み教材を利用することができます。

自習モードの設定

授業中に、特定の学習者を「自習モード」に切り替えることができます。自習モードに設定された学習者は公開されている教材を利用して学習者用パソコンで自習を行うことができます。

マスターコンソール

自習モードの設定をする場合は、設定する学習者の座席アイコンを右クリックして、メニューから [自習モード] を選択します。メニューにチェックマークが付いている状態が、自習モード中です。
自習モードを解除するには、もう一度 [自習モード] をクリックして、チェックマークを外します。自習モードの学習者の座席アイコンには自習マーク が表示されます。

自習モードの学習者は、授業中と同じようにソフトウェアレコーダーで学習を行うことができます。ただし、自習モードの学習者に対する教員の操作には、次のような制限があります。

- グループレッスン・ペアレッスンの対象になりません。
- 画面の送信 (教員画面の一斉送信・モデル画面の一斉送信)、音声・映像出力ができません。
- 操作ロックとブラックアウトができません。
- サイマル設定、消音、話速ロックができません。
- 一斉録音の対象になりません。
- 原文・訳文表示切替えの対象になりません。
- 教材ロックの対象になりません。
- アプリケーション制御ができません。

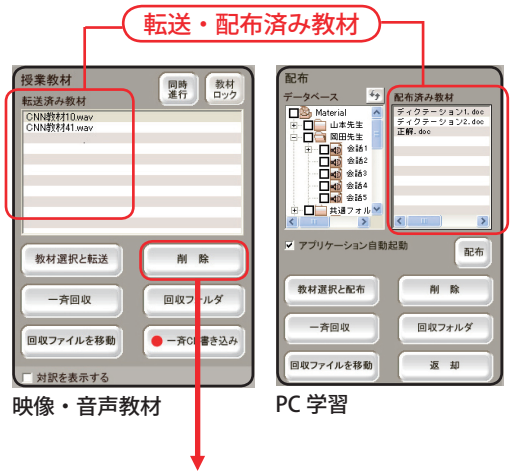
メモ　自習モード中の学習者用パソコンの操作については学習者用アプリケーション 操作マニュアルの「3. ソフトウェアレコーダーの操作 自習モード」を参照してください。

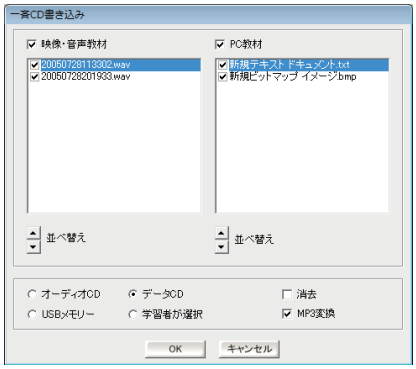
11.教材の持ち帰り

■ 一斉ＣＤ書き込み機能で持ち帰り 74
■ 学習者がコピーして持ち帰り 75

一斉ＣＤ書き込み機能で持ち帰り

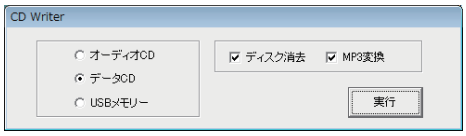
転送済みの映像・音声教材、配布済みの PC 学習教材を CD-R や CD-RW に一斉に書き込む機能です。CD メディアの代わりに USB メモリーを使用することもできます。





「一斉 CD 書き込み」画面

学習者側の書き込み形式選択画面
(教員が「学習者が選択」と設定している場合のみ表示されます)



1. 転送済みの映像・音声教材と配布済みの PC 学習教材を確認します。これらの教材が書き込まれます。
2. 学習者用パソコンに書き込み可能な CD-R/RW または USB メモリーをセットします。(メディア準備を学習者に促してください。)
3. [一斉 CD 書き込み] をクリックします。
「一斉 CD 書き込み」画面で書き込みに関する設定を行います。

映像・音声教材	映像・音声教材の転送機能で転送した教材ファイルを書き込みます。リストに表示されている教材が書き込まれます。書き込む必要がないファイルはチェックマークを外してください。
PC 教材	PC 学習の配布機能で配布した教材ファイルを書き込みます。リストに表示されている教材が書き込まれます。書き込む必要がないファイルはチェックマークを外してください。
オーディオ CD	音声ファイル形式のものだけを、音楽 CD 形式で書き込みます。トラックの書き込み順番を変更する場合は「並べ替え」ボタンでファイル名並べ替えてください。オーディオ CD 形式で書き込んだ CD-R/RW は一般の CD プレーヤーやパソコンの再生アプリケーションで再生することができます。(CD-RW を使用してオーディオ CD 形式で書き込む場合は、CD-RW に記録されていたデータがすべて削除されますので注意してください。)
データ CD	選択されたすべての教材ファイルを CD-R/RW に書き込みます。書き込んだ音声ファイルは Windows Media Player などのアプリケーションで再生することができます。(通常の CD プレーヤーでは再生できません。)
USB メモリー	選択されたすべての教材ファイルを USB メモリーに書き込みます。書き込んだ音声ファイルは Windows Media Player などのアプリケーションで再生することができます。(ファイルは USB メモリーの記憶領域に直接書き込まれます。フォルダ分けなどは行われません。)
消去	CD-RW に書き込む場合、CD-RW に記録されているファイルをすべて削除してから書き込みを行います。[データ CD] を選択している場合のみ設定できます。
MP3 変換	音声ファイルを MP3 形式に変換して書き込みます。[データ CD] または [USB メモリー] を選択している場合のみ設定できます。
学習者が選択	書き込み形式や MP3 変換などの設定選択を各学習者ができるようにします。

メモ USB マスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤー (特別なドライバを必要とせずにリムーバブルディスクとして認識できるもの) を USB メモリーの代わりに使用することもできます。

(手順は次のページに続きます)

書き込み中

書き込み終了

4. 設定後、[OK] をクリックすると各学習者のパソコンで書き込みが始まります。(「学習者が選択」と設定した場合は、ここで [OK] をクリックした後に学習者用パソコンに書き込み形式を選択する画面が表示されます。この場合、各学習者が書き込み形式を選択した後に書き込みが開始されます。)

5. 書き込み中は、学習者の座席アイコンに書き込み状況を示します。

準備中です。まもなく書き込みをはじめます。

学習者用パソコンに CD-R/RW がセットされていません。CD-R/RW をセットして、[確認] をクリックさせます。

学習者用パソコンにファイルをコピー中です。

CD-RW のファイルを消去中です。

CD-R/RW に書き込み中です。

書き込みが正常に終了しました。

書き込みができませんでした。

6. 書き込みが終了すると、「一斉 CD 書込みが終了しました。」というメッセージが表示されます。上図のように、書込みができなかった学習者がいる場合は、「一斉 CD 書込みが終了しました。エラー終了した学習者がいます。」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

メモ USB メモリーは機種ごとにドライバが組み込まれるため、書き込み開始の準備が整うまで若干時間がかかります。USB メモリーを使用する場合は、学習者用パソコンで USB メモリーが認識された後、学習者が画面のメッセージに従って [実行] ボタンを押すと書き込みを始めます。また、複数のメモリーを挿入している場合はプルダウンメニューから選択が可能です。

メモ 書込み途中でキャンセルしたい場合は、[一斉 CD 書込み] ボタンをもう一度クリックしてください。書込み中の学習者用パソコンはそのまま書込みを続けますが、書込みを開始していない学習者用パソコンは書込みを行いません。

メモ システムによって、映像教材の持ち帰りを禁止している場合があります。その場合は、書き込みファイルのリストに映像ファイルは表示されません。

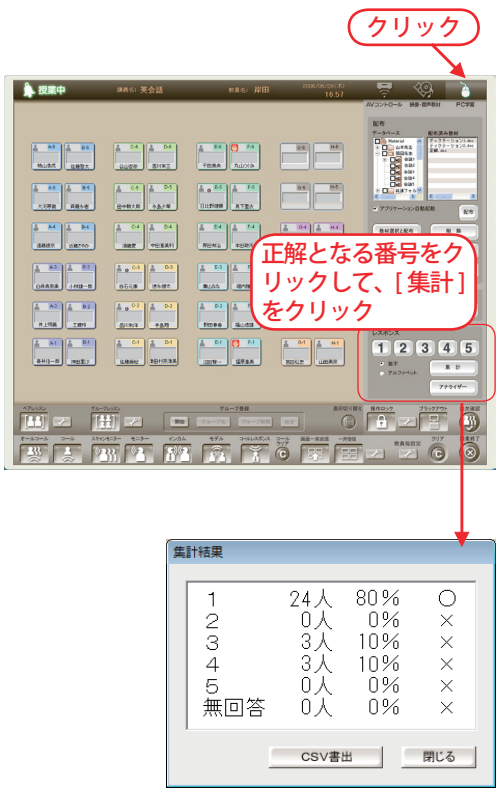
学習者がコピーして持ち帰り

転送・配布された教材ファイル、および学習者自身の練習録音ファイルのうち必要なものだけを学習者が選択して USB メモリーなどにコピーして持ち帰ることができます。操作の方法については「学習者用アプリケーション　操作マニュアル」を参照してください。

12.レスポンス・アナライザー

■ １つの問題ごとに集計 77
■ 複数の問題で集計..... 78
問題の準備..... 78
問題の保存..... 79
問題の読み込み 80
テストの実施 81
回答の統計..... 83
学習者用の統計 83

１つの問題ごとに集計



集計結果の画面

1. 操作パネルは「PC 学習」を使用します。(クリックして切り替えます。)

2. 学習者用の選択肢表示を切り替えます。
[数字] : [1] ～ [5] のボタンが表示されます。
[アルファベット] : [A] ～ [E] のボタンが表示されます。

3. 学習者に、ナビゲーターの [1] ～ [5](アルファベット表示の場合は [A] ～ [E]) のいずれかをクリックして回答するよう指示します。
このとき教員は、画面の「レスポンス」部分で、正解のボタンをクリックしておきます。

4. 学習者が回答を終えたら教員は [集計] をクリックします。

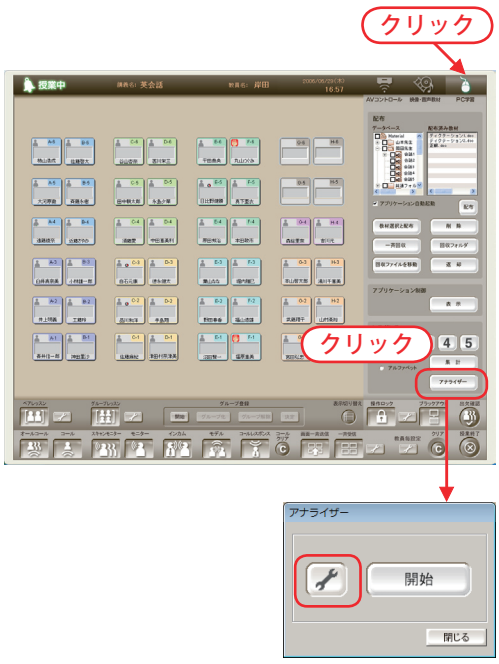
5. 「集計結果」画面が表示されます。
この画面には、選択肢ごとにそれを選択した学習者の人数と割合が表示されています。「○」は教員がクリックしたボタン (正解のボタン) です。その他のものには「×」(不正解) が表示されます。回答の割合は小数点以下を切り捨てて表示していますので、全体の合計が 100%にならない場合があります。

   メモ 手順３で、教員が正解のボタンをクリックせずに [集計] をクリックした場合は、「集計結果」画面で該当の選択肢に「○」や「×」が表示されません。正解・不正解を問わないアンケート集計などの場合は、教員が正解のボタンをクリックすることなく [集計] をクリックして利用することも可能です。

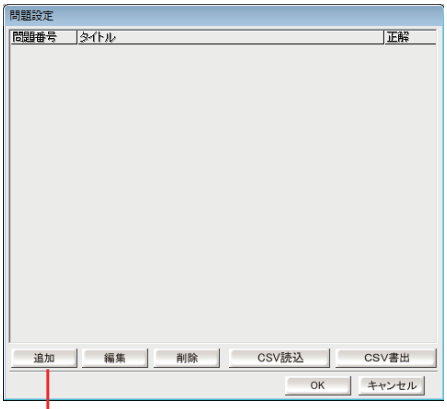
6. この結果を保存しておきたい場合は [CSV 書出] をクリックします。「名前を付けて保存」画面が表示されますので、ファイル名を入力して保存してください。CSV 形式のファイルで保存されます。(CSV 形式のファイルは、Excel を利用して閲覧できます。)

7. 「集計結果」画面を閉じる場合は [閉じる] をクリックしてください。

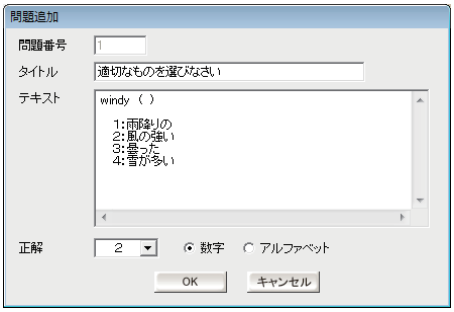
複数の問題で集計



問題設定の画面



[追加] をクリック



問題追加の画面

問題の準備

複数の問題を扱う場合は、あらかじめ問題を準備しておきます。

1. 教員は、授業画面の [PC 学習] をクリックして PC 学習の画面を表示します。
2. [アナライザー] をクリックします。
   アナライザー画面が表示されますの スパナボタンをクリックします。
3. 「問題設定」画面で [追加] ボタンをクリックします。
4. 問題追加画面で、問題の内容を設定します。

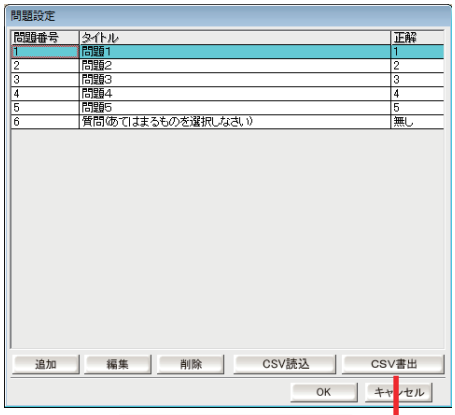
問題番号	番号は自動的に付けられます。すでに複数の問題が登録されていて、この問題を特定の順番に挿入したい場合は、この番号を変更すると指定の位置に挿入することができます。以降の問題番号は自動的に繰り下げられます。
タイトル	この問題タイトルなどを自由に入力できます。全角・半角とも 26 文字まで入力可能です。ここに入力された文字は出題時に学習者の画面上にも表示されます。
テキスト	問題の内容を自由に入力できます。全角・半角とも 400 文字まで入力可能です。ここに入力された文字は出題時に学習者の画面上にも表示されます。
正解	この問題の正解を指定します。回答の選択肢を [1] ～ [5] の数字にする場合は「数字」を、選択肢を [A] ～ [E] のアルファベットにする場合は「アルファベット」を選択し、リストから正解となるものを選んでください。 特に正解となるものを決めない問題の場合は「無し」を選択してください。

5. [OK] をクリックして問題を登録します。
   続けて問題を登録する場合はもう一度 [追加] をクリックして登録を行なってください。

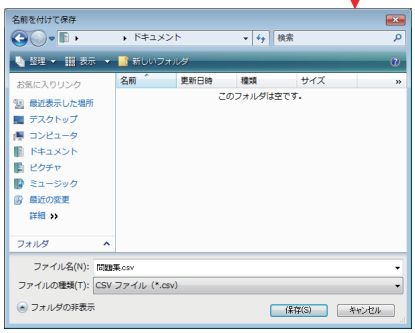
   すべての問題の登録が終了したら、「問題設定」画面の [OK] ボタンをクリックします。

メモ 問題を修正または削除するには、「問題設定」画面のリストから該当の問題をクリックして選択し、[編集] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。
編集する場合は「問題編集」画面で修正を行い、修正が終了したら [OK] ボタンをクリックしてください。

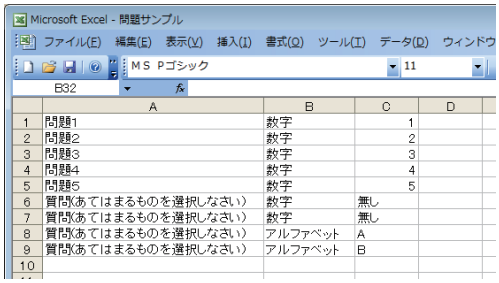
問題設定の画面



[CSV 書出] をクリック

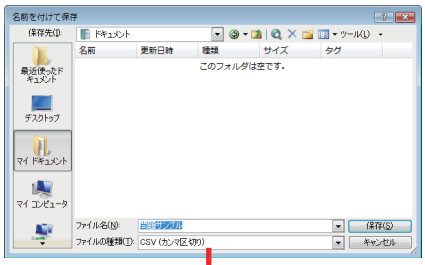


CSV 形式での問題データ作成 (Excel を使用)



行番号　：行番号は問題番号になります。
列A　：タイトルを入力します。全角・半角とも 26 文字以内で入力してください。
列B　：選択肢の表示方法を指定します。選択肢を [1] ～ [5] のボタンにする場合は「数字」と入力します。選択肢をアルファベット [A] ～ [E] にする場合は「アルファベット」(全角カナ) と入力します。
列C　：正解となる番号またはアルファベットを指定します。半角英数字で入力してください。特に正解となるものを決めない問題の場合は「無し」と入力します。
列D　：問題の内容を入力します。全角・半角とも 400 文字以内で入力してください。

名前を付けて保存



ファイルの種類では「CSV(*.csv) を選択します。

問題の保存

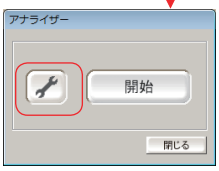
問題を複数パターン作成して使い分けたい場合は、登録した問題を CSV ファイル形式で保存します。

1. 前ページの「問題の準備」の手順 1 ～ 4 に従って、問題を設定します。
2. 問題の設定が終了したら「問題設定」画面の [CSV 書出] をクリックします。
3. 「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名を入力して [保存] ボタンをクリックすると、設定した問題が CSV ファイル形式で保存されます。
4. 引き続き別のパターンの問題を作る場合は、現在表示されているものを編集したり削除したりして新しい問題を設定します。(前の問題設定の内容は、すでに CSV 書出で保存されていますので、編集や削除を行なってもなくなることはありません。)
5. 編集が終了したら、もう一度 [CSV 書出] をクリックして、新しいファイル名を付けて保存します。
このような手順で複数パターンの問題を蓄積しておくことが可能です。

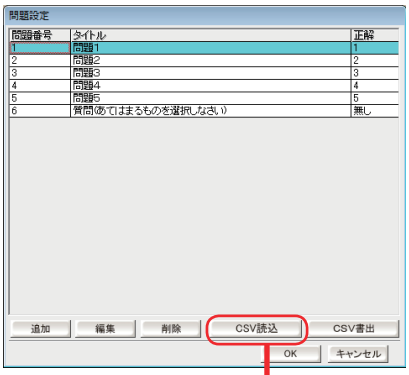
メモ CSV 形式で問題データを作成する場合

マスターコンソールを使って問題準備ができない場合は、CSV 形式で問題データを作成し、蓄積しておくことも可能です。CSV 形式でのデータ作成には、Excel を使用すると便利です。

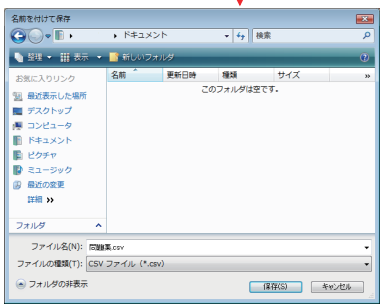
左記の要領で問題の入力を行います。入力が終了したら、[ファイル] メニューより [名前を付けて保存] を選択し、問題データを CSV 形式で保存します。
このデータを授業で使用する場合は、USB メモリーなどにデータを保存しておき、授業時に次ページの「問題の読み込み」の手順に従って問題を読み込んでからテストを行います。



問題設定の画面



CSV ファイルを選択



問題の読み込み

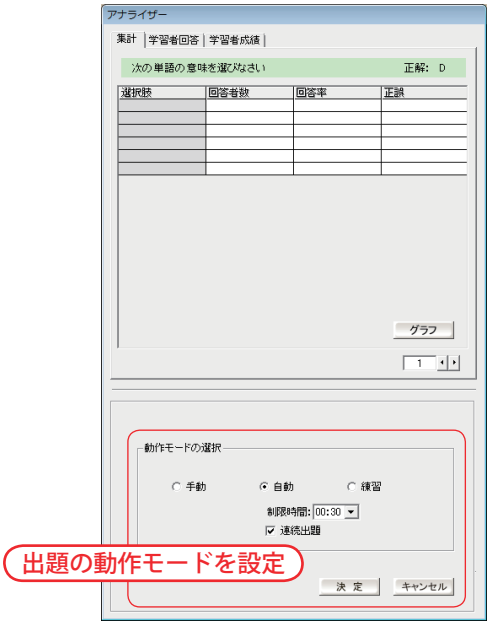
CSV ファイルで保存した問題データを使用してテストを実施する場合は、テストを行う前に問題データを読み込む必要があります。

1. [アナライザー] をクリックします。
   アナライザー画面が表示されますので スパナボタンをクリックします。ボタンをクリックして問題設定の画面を開きます。(問題設定画面に表示されている問題が現在設定されている問題です。)
2. [CSV 読込] をクリックして、「ファイルを開く」画面を表示させます。
3. 使用したい問題データ (CSV ファイル) を指定し、[OK] ボタンをクリックします。
4. 指定の問題データが問題設定画面上に表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックして問題設定画面を閉じます。

テストの実施

1. [アナライザー] ボタンをクリックします。アナライザー画面が表示されますので [開始] をクリックします。

アナライザー画面



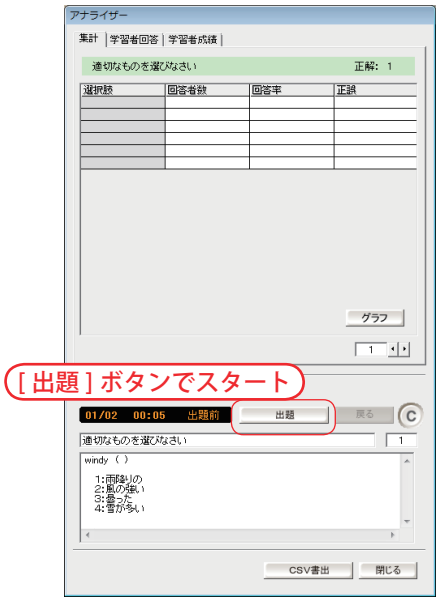
2. 画面下部で「動作モード」を選択します。

手動	回答の〆切りや問題の切り替えを教員が手動で行います。[出題] や [〆切り] ボタンを押しながら、テストを進めます。
自動	一定時間で回答を〆切り、次の問題に切り替える自動進行モードです。(問題の出題は、教員が手動で行います) 1 問あたりの回答時間を「制限時間」リストから選択します。
連続出題	回答〆切り後に次の問題を自動的に出題する完全自動モードです。自動を選択した場合に、チェックマークを付けて設定することができます。
練習	各学習者が自分のペースで回答し、学習者が自分で次の問題に切り替えて進めます。教員は回答の〆切りや問題の切り替えを行う必要はありません。

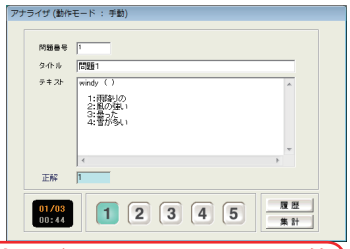
3. [決定] ボタンをクリックして出題画面に移ります。

手順は次のページにつづきます

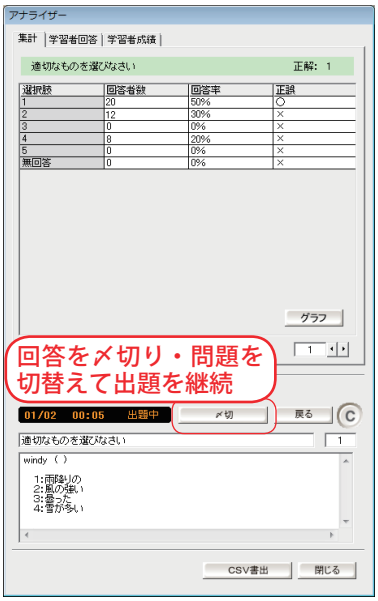
アナライザー画面

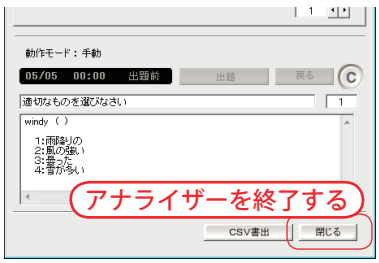


学習者用 回答画面



アナライザー画面





4. [出題] ボタンをクリックすると最初の問題が出題されます。学習者の画面には、問題内容と回答用の番号ボタン [1] ～ [5](アルファベット表示の場合は [A] ～ [E]) が表示されています。いずれかをクリックして回答するように指示します。

学習者が回答すると、座席アイコンに表示が出ます。

正解の学習者

不正解の学習者

正解・不正解については、教員がこの問題を設定したときに入力した情報に基づいて判断されます。
この問題の正解が「無し」と設定されている場合は、○または×による表示ではなく、学習者が選んだ番号または記号が座席アイコンに表示されます。

選択内容の表示

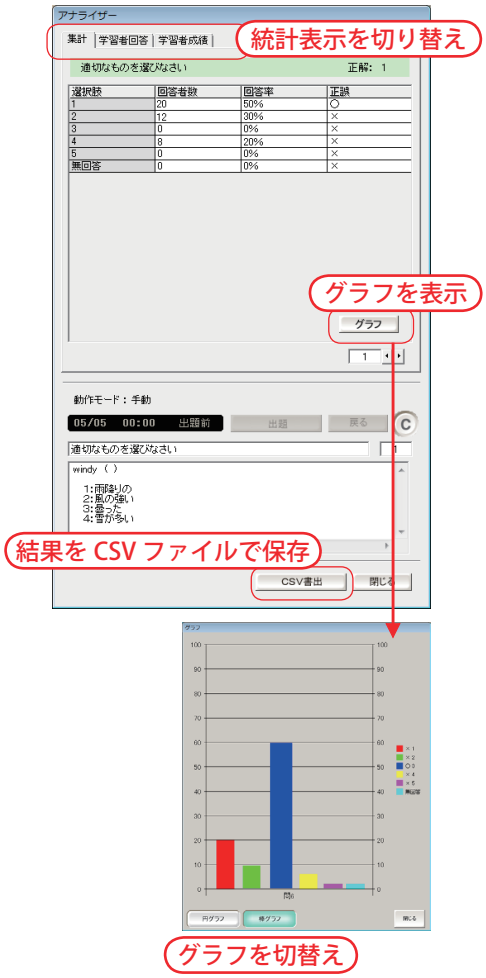
5. 手動モードの場合は、教員が [〆切り] をクリックして学習者の回答を 1 問ごとに〆切ります。(回答が〆切られた後は、学習者の選択肢を変更することはできません。)
手動モードまたは自動モード (連続出題を設定していない場合) の場合は、ボタンが [次の問題] に切り替わりますのでクリックして問題を切り替え、さらに [出題] をクリックしてテストを進めます。

6. テストが終了したら [閉じる] をクリックしてアナライザー画面を閉じます。

メモ 出題中に授業画面の操作をする場合は [閉じる] をクリックしてアナライザー画面を閉じてから行なってください。

メモ 一度出題した問題をやり直したい場合は、アナライザー画面のクリアボタン [C] をクリックしてください。クリアボタンをクリックするとアナライザーがテスト開始前の状態に戻ります (クリアする前の回答記録は削除されます。クリアする前に必要に応じて [CSV 書出] を利用して回答記録のデータを保存してください。データの保存については次ページの「回答の統計」を参照してください。)

アナライザー画面



回答の統計

テスト終了後は、学習者の回答結果を次の３種類の画面で確認することができます。また、簡易的なグラフを表示することも可能です。

集計	１つの問題に対して、選択肢ごとの回答者数や回答率を示しています。右下のボタンで問題番号を切り替えると、別の問題の情報を見ることができます。[グラフ] をクリックすると、グラフ表示も可能です。
学習者回答	１つの問題に対して、学習者ごとの回答の状況 (回答内容と正誤・所要時間) と、この問題での順位を示しています。右下のボタンで問題番号を切り替えると、別の問題の情報を見ることができます。
学習者成績	学習者ごとの正解数・正解率と、全体を通しての成績 (順位) を示しています。

この結果は授業終了時、またはアナライザーをクリアした場合に消去されます。結果を保存しておく必要がある場合は [CSV 書出] をクリックして、CSV 形式で保存してください。(CSV 形式のファイルは、Excel を利用して閲覧できます。)

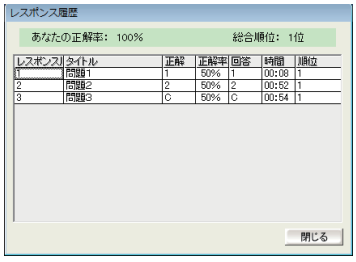
学習者用 回答画面

学習者用の統計

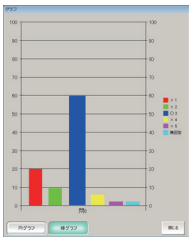
学習者は、回答終了後に履歴と統計を見ることができます。
[履歴] ボタンでは、各問題ごとの回答・正答のほかに、正答率や順位も確認できます。
[集計] ボタンでは、各問題ごとの正答と回答分布を確認でき、グラフも表示できます。

学習者の操作については「学習者用アプリケーション　操作マニュアル」を参照してください。

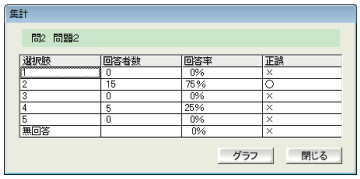
回答の履歴



グラフの表示



全体の統計



13.授業の終了

■ 授業を終了する.....85
■ 学習者用パソコンの一斉終了 85
■ マスターコンソールのログオフとシャットダウン ..85
教員名の変更 85
シャットダウン 85

授業を終了する

1. 授業を終了するには、授業画面の [授業終了] をクリックします。「授業を終了してもよいですか？」という確認メッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。
2. 教材の保存を確認する画面が表示されます。この授業で使用した教材の処理方法を選択してください。

[全て残す]	この履修クラスで学習者に公開されている教材と転送・配布された教材のすべてを次回の授業でも引き続き使用できるようにします。
[全ての教材を削除]	この履修クラスで一斉録音した音声ファイルと学習者に転送・配布された教材のすべてを削除します。次回の授業で教材を利用する場合は、一斉録音、転送または配布を行う必要があります。

メモ 授業終了時に「全ての教材を削除」を選択した場合、一斉録音・一斉録画した音声ファイルは完全に削除されますが、データベースから転送・配布した教材ファイルが完全に削除されることはありません。「全ての教材を削除」では、転送・配布用の教材データだけを削除します。これは、教材の転送・配布の操作を行なったときに、もとの教材データを複製したものです。従って、もとの教材データはサーバーのデータベースに保存されています。次回の授業でもう一度「転送」や「配布」の操作を行えば、同じ教材を使用することができます。

メモ ログイン方法に「認証なし」または「統合認証」を採用しているシステムで、教員名を選択せずに [すぐに使う] ボタンでログインして授業を行なった場合は、授業で転送・配布した教材を残しておくことはできません。授業を終了した時点で、転送済み、および配布済み教材がすべて削除されます。(データベースに保存されている教材は削除されません。)

学習者用パソコンの一斉終了

すべての学習者用パソコンを一斉にシャットダウン、再起動またはログオフさせるには、メインメニューの [一斉シャットダウン]、[一斉再起動] または [一斉ログオフ] をクリックしてください。

マスターコンソールのログオフとシャットダウン

授業が終了したら、教員はログオフまたはマスターコンソールをシャットダウンしてください。

教員名の変更

メインメニューの [教員の切り替え] をクリックします。
教員のログイン画面に戻ります。継続して次の授業で別の教員がログインできます。
(「統合認証」を採用しているシステムで、マスターコンソール起動時に教員個人のアカウント・パスワードで Windows にログオンしている場合は、必ず一旦マスターコンソールをログオフまたは再起動して次に使用する教員が自分のアカウント・パスワードで使用できるようにしてください。)

シャットダウン

メインメニューの [終了] をクリックします。
Windows のシャットダウン手順と同様にパソコンの電源を切ります。

14.視聴覚モード

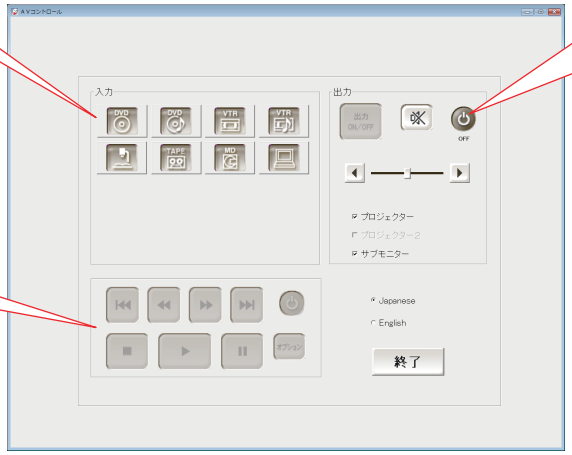
視聴覚モードは、授業を開始しなくても AV 機器のコントロールができる簡易ツールです。

1. 視聴覚モードを使用するには、使用するＡＶ機器の電源を入れ、教材 (ＣＤやＤＶＤなど) をセットします。
スクリーンやサブモニター (センターモニター) など、出力先となるものの電源も入れてください。

2. マスターコンソールを起動して、デスクトップの [AV Control] アイコンをダブルクリックします。

3. AV コントロールの操作画面が表示されます。
(操作画面の表示を英語に切り替えるには [English] をクリックしてください。)

AV コントロール操作画面



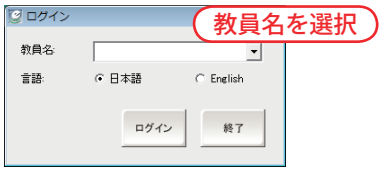
4. 視聴覚モードを終了するには [終了] ボタンをクリックしてください。

メモ 視聴覚モードを使用する場合は、マスターコンソールアプリケーションは終了させてください。

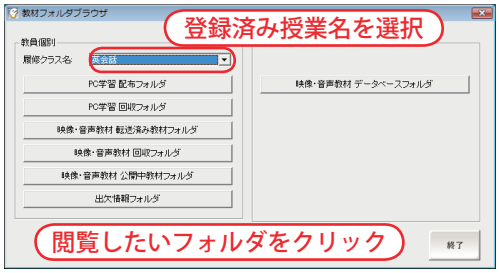
15.教材フォルダブラウザ (教材の登録と管理)

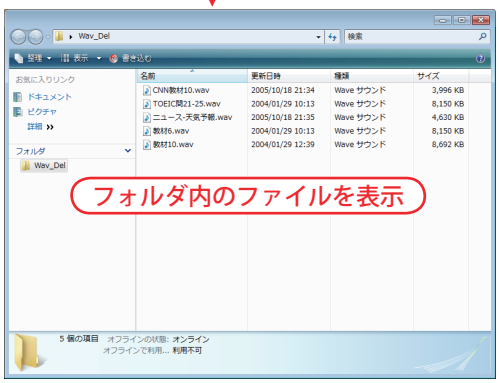
使用した教材ファイルはサーバーのデータベースに保存されています。教材フォルダブラウザ (Material Folder Browser) を使用すると、保存場所ごとに教材の一覧を見ることができます。教材ファイルの管理にご利用ください。

ログイン画面



メイン画面





1. 教材フォルダブラウザ (Material Folder Browser) を起動するには、マスターコンソール (または教員用パソコン) のデスクトップの [Material Folder Brower] アイコンをダブルクリックします。

2. ログイン画面が表示されます。[教員名] をリストから選択し、[パスワード] が登録されている場合は入力します。
英語表示への切り替えが必要な場合は [English] を選択して、[ログイン] をクリックします。

3. メイン画面が表示されます。
[履修クラス] のボタンをクリックしてクラスのリストを表示します。リストには、あらかじめ登録されている履修クラスが表示されます。閲覧したいクラス名をクリックして選択します。

4. 画面上のボタンをクリックすると、サーバーのデータベースに保存されている教材用の音声ファイルや映像ファイルをエクスプローラで表示します。
必要に応じて、教材ファイルを追加・削除します。

5. 教材フォルダブラウザを終了するには [終了] をクリックしてください。

注意! 授業を行っている最中に教材フォルダブラウザを使用する場合、「映像・音声教材データベースフォルダ」以外にはアクセスしないでください。
授業中に「映像・音声教材データベースフォルダ」以外のフォルダにアクセスし、教材ファイルの消去、コピー又は移動を行うと、授業に支障を来す場合があります。

各ボタンの表示内容

PC 学習 配布フォルダ	授業画面の [PC 学習] で配布を行なった教材ファイルが表示されます。
PC 学習 回収フォルダ	授業画面の [PC 学習] で一斉回収を行なった教材ファイルが表示されます。
映像・音声教材 転送済みフォルダ	授業画面の [映像・音声教材] で学習者に転送した教材ファイルが表示されます。
映像・音声教材 回収フォルダ	授業画面の [映像・音声教材] で一斉回収を行なった教材ファイルが表示されます。
映像・音声教材 公開中教材フォルダ	授業画面の [映像・音声教材] で公開した教材ファイルが表示されます。
映像・音声教材 データベースフォルダ	授業画面の [映像・音声教材] で表示されているデータベースフォルダが表示されます。教員・履修クラスに関係なく、教材ファイルを閲覧することができます。
出欠情報フォルダ	出欠情報フォルダが表示され、出欠情報を記録した CSV ファイル及びチャットログファイルが表示されます。認証モードによっては、チャットログファイルのみが表示される場合があります。

索　引

ア

新しいパスワード..... 19
アナライザー 78
アプリケーション制御 71
アプリケーション自動起動..... 58, 59, 60
アルファベット 77

イ

一時停止..... 29
一時停止 [画面送信]..... 66
一覧表示..... 55
一斉 CD 書き込み 74
一斉回収..... 61
一斉再起動 85
一斉シャットダウン..... 85
一斉受信..... 56
一斉配布..... 58
一斉ログオフ 85
一斉録音..... 12, 31
一斉録画..... 31
色 66
インカム..... 47, 49
インカムを解除..... 49
印刷 20
インターネットアクセス禁止..... 71

エ

映像オプション..... 25, 27
映像配信のサイズ..... 13
遠隔操作..... 67, 68
円を描く..... 66

オ

オーディオ CD..... 74
オーディオユニット..... 51
オートログイン..... 17
オールクリア 66
オールコール 46
オールコールを解除..... 46
オプション 29
音声教材..... 34
音声切替ボタン..... 27
音声出力レベル..... 30
音声スキャンモニター間隔..... 12
音量調節..... 30

カ

回収 38, 62
回収フォルダ 38, 62
回答結果..... 83
外部入力..... 30
会話音声を聞く 47
会話メンバーの表示..... 13
書き込み状況 75
学習者回答 83
学習者画面の受信間隔 12
学習者情報 56
学習者成績 83
学習者と対話 49
学習者のパスワード..... 19
学習者パソコンへ出力 25, 28
学習者 PC 一斉起動 15
学習者へ転送 36
学習者用パソコン..... 6, 7, 8
学習者用パソコンの設定 13
学籍番号..... 18
確認用モニター 6
カセット..... 6, 26, 29
課題を提出 62
カメラ..... 32, 42, 43, 56
画面受信..... 65
画面受信ウィンドウ..... 67, 68
画面送受信機能..... 6
画面受信停止 67
画面受信の連動..... 47, 50
画面連動の設定 49
画面送受信 65
画面転送の設定 14
画面のサイズ 65
画面モデル送信 68
カラーパレット 66
間隔 13

キ

奇数人数..... 42
起動 15, 71
起動抑止..... 71
キャンセル (CD 書込み)..... 75
教員毎設定 11
教員の切り替え..... 85
教員用パソコン 6
教材作成アプリケーション..... 7, 34
教材提示装置 32
教材配布..... 60
教材フォルダブラウザ 7, 89
教材ロック 72
強制終了..... 71

ク

矩形を描く 66
クリア..... 28, 66
グループ化 44
グループ登録 44
グループの設定..... 43
グループレッスン..... 43

ケ

消しごむ..... 66
欠席者の一覧表 20
言語 12
現在の画面状態..... 65
原文..... 34

コ

コール..... 46
コール音..... 14
コールクリア 50
コールレスポンス..... 50
コールを解除 46, 50
公開 35
公開中教材 35
更新間隔..... 65
個別教材配布 60
コマ数..... 14
コメント..... 56

サ

サーバー..... 6, 34, 58, 89
サイズ..... 14
サイズ変更 14
再生 29
サイマル..... 52
削除 59
座席固定モード 18

シ

自習教材..... 35, 36
自習モード 35, 36, 72
システムの構成..... 6
視聴覚モード 87
自動出欠確定 20
自動早退確認 21
自動分割..... 12
字幕 29
〆切り..... 82
シャットダウン..... 85
集計 77, 83
終了 85
授業画面..... 7, 17
授業終了..... 85
授業の開始 17
出欠確認..... 12, 20, 21
出欠情報収集 22, 23
出席カード 17, 18
出席カード再配布..... 20
出席者の一覧表..... 20
出力選択..... 25, 26
出力のレベル 30
消音 28
消去 74
詳細ボリューム設定..... 30
書画カメラ 25, 26, 29, 32

ス

スイッチャー 6
数字 77
スキップ..... 29
スキャンモニター..... 47
スキャンモニター間隔 12
スキャンモニターを解除 47
スピーカー音量..... 30
全ての教材を削除..... 85
すべてのコールを解除 50
全て残す..... 85

セ

正解 78
制御ボタン一覧..... 29
前回のグループ..... 43
前回のペア 42
全画面..... 13
全画面表示 67
センテンス自動分割..... 31
センテンス分割..... 12, 31, 34
線幅 66
線を描く..... 66

ソ

操作画面 7
操作ロック 70
操作ロックの制限 70
早退確認 21
ソフトウェアレコーダー 8, 35, 36
ソフトウェアレコーダー持ち帰り 13

タ

タイトル 78
対訳を表示する 52
対話 49, 50
ダビング 31

チ

遅刻 21
遅刻解除 21
チャイム音 14, 46
チャット 45
直線を描く 66

ツ

次の問題 82

テ

データ CD 74
停止 29
提出 38
デフォルトサイズに戻す 67
電源 29
転送済み教材 36

ト

統計 83
統合認証 18
トップメニュー 29
取出し 29

ナ

内蔵 CD 30
ナビゲーター 8

ニ

認証あり 18
認証なし 17

ハ

配布 58
パスワード 19
パスワード解除 [学習者] 19
パスワードの変更 10
パスワード忘れ [学習者] 19
早送り 29

ヒ

非公開にもどす 35
ピッチ表示 8
非表示 70
評価 56
描画ツール 66
表示切替 55
表示言語 12
表示テキスト 71

フ

ファイルを配布 60
ブラックアウト 70
プレビューモニター 6, 25, 26
プロジェクター 26, 27

ヘ

ペアの設定 42
ペアレッスン 42
ヘッドホン音量 30
ペン 66
返却 63

ホ

ポーズ時間 13
ボリューム 30
ボリューム設定 30

マ

マーカー表示 67
マイク音量 30
マイクミックス 28
巻戻し 29
マスターコンソール 6
マニュアル分割 12, 31

メ

メインメニュー 7
メインモニター 26, 27
メッセージ送信 53

モ

モデル 49
モデルを解除 49
モニター 47
モニターを解除 47
問題設定 78
問題の準備 78
問題番号 78

ヤ

訳文 34

ヨ

呼びかけに応じる 50

リ

履修クラス 89
履修クラスごとの出欠状況 23
履修クラスの選択 17
リセット (アナライザー) 82
リモートコントロール 67
履歴 83

レ

レスポンス 77
レベル補正 30
練習状況 55

ロ

ログイン 17, 89
ログオフ 85
ロック 67, 70

ワ

話速制御 28, 51
話速ロック 28, 51

アルファベット

A

ASF 34
AV Control 87
AV-P960 32
AV-P960 Viewer 32
AVI 34
AV 機器 6
AV 機器制御ボタン 25, 26
AV 機器選択 25, 26
AV コントローラー 7
AV コントロール 87

C

CALL システムメインメニュー 7
Camera Viewer 8
CD 6
CSV 書出 22, 77, 79
CSV 読込 80

D

DVD 6
DVD のメニュー 29

E

Excel 58

H

HTML 58

I

InstallSWR.msi 13
Internet Explorer 58, 71

L

LD 25

M

m2t 31, 34
MD 25
MP3 34
MPEG 31, 34

P

PC オーディオ 25, 29, 30
PC 教材フォルダ 59, 60

U

URL リンク 71
USB カメラ 14, 42, 43, 56
USB メモリ 59

V

VTR 6

W

WAV 34
WAVE 25, 31
WMV 34
Word 58

お客様ご相談センター

0120－2828－17

携帯電話・PHS　・FAXなどからのご利用は

電話 (045)450-8950［代表］

FAX (045)450-2275

〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　　電話（042）660-7203

© 2009 Victor Company of Japan, Limited

LST0812-001B